



学園の使命

学校法人東京電機大学は

大学、高等学校、中学校の経営を通し、

110年を超えて培ってきた歴史と伝統をもとに、

次世代を担う技術者を中核とした

人材を育成することにより、

社会に貢献することを使命としています。

その責任は、在学している学生・生徒、

ご父母、卒業生、産業界、社会全体、

そして未来に負います。

TDU

学校法人東京電機大学 総務部（企画広報担当）

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

Tel.03-5284-5125 Fax.03-5284-5180 E-mail : keiei@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



Annual Report 2018

学校法人東京電機大学 2017年度 学園活動の概況

TDU 東京電機大学



CONTENTS

- 理事長メッセージ
輝き続ける学園を目指す
～最高の教育を目指し連携・協力、
新たなTDUを創造する年～
- 01 **目指す**
- 03 **創立から今日まで**
—私たちの理念
- 05 **基本情報・経営体制**
- 特集1
「セキュアIoT生体医工学」＝「東京電機大学」
07 **高度セキュアIoT**
医療機器システムの研究開発
- 特集2
08 **創意工夫を育み、「つくりたい」をバックアップ**
ものづくりセンター本格運用スタート
- 特集3
卒業生スペシャルインタビュー
09 **世界が目にする**
先進の自動車技術『アイサイト』の
進化を常にリードする卒業生
株式会社SUBARU 第一技術本部 先進安全設計部
木戸 辰之輔 さん
- 学長インタビュー
11 **バランスに優れた高度専門家の育成**
社会を安全・安心・豊かに
する新しい学びを創出
- 13 **事業報告**
2017年度の取り組みと成果
- 21 **財務情報**
- 29 **Information & DATA**

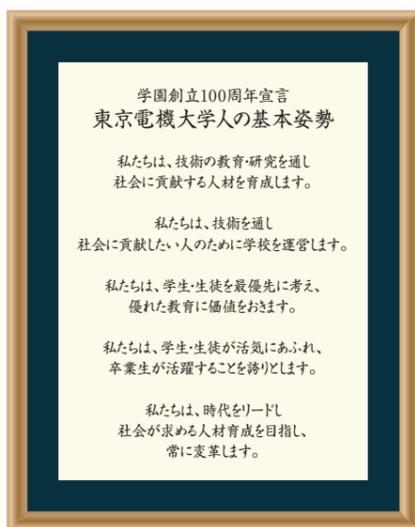
理事長メッセージ

輝き続ける学園を目指す

～最高の教育を目指し 連携・協力、新たなTDUを創造する年～



学校法人東京電機大学
理事長 加藤 康太郎



5つの行動規範

1. すべてに礼節を重んず
2. 本学は一人ひとりの教職員によって構成される組織体である
3. 額に汗し、努力の結果以外の報酬は受けない
4. すべての判断尺度は「正しいかどうか」、「公正であるかどうか」である
5. 常に原理原則に立ち、凜然と事を決す

人・モノ・情報のグローバル化の進展、少子高齢化の進行、生産年齢人口の減少など、学園を取り巻く環境は大きく変化し、日本の国際競争力の低下が危ぶまれるなかで、大学をはじめ教育機関の役割と責任は大きいと感じます。なかでも、2018年を境に18歳人口が減っていく「2018年問題」は、多くの大学が直面する課題です。先人が築いてきた輝かしい歴史と伝統に支えられ、堅調な発展を遂げてきた本学園も例外ではありません。

これからの時代に求められるのは、変化する社会のニーズに的確に対応できる学園です。変化が激しく厳しい経営環境だからこそ挑戦する価値があり、勝ち抜くチャンスがあると言えます。大切なのは、失敗を恐れずにチャレンジする精神と言えるでしょう。

「生き残り」から「勝ち残り」への転換を図る本学は、10年後の2023年を見据えた中長期計画「TDU Vision 2023」を2014年に策定しました。これは、時代を超えて輝き続ける東京電機大学の実現に向けて、本学にしかできない特色ある取り組みの推進を目指すものです。

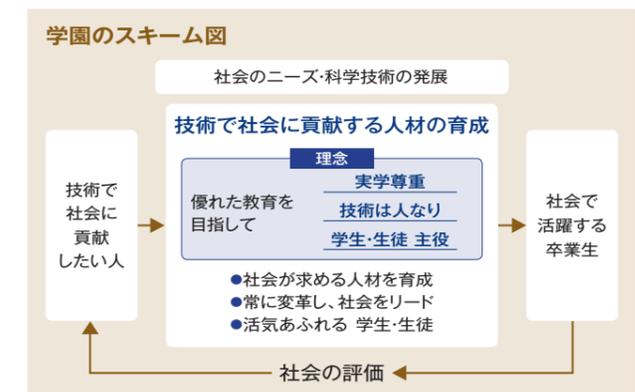
そのための新しいチャレンジはすべて、建学の精神である「実学尊重」と教育・研究理念である「技術は人なり」の考え方に根差しています。そして本学が一貫して目指してきたのは「技術で社会に貢献する人材の育成」であり、これこそが強みなのです。創立当初からの技術者教育への熱い思いと学生・生徒主役、教育最優先の精神は、これまでも、そしてこれからも変わりません。その成果として22万人を超える卒業生が、日本にとどまらず世界の産業界をはじめとした各界で活躍し、その活躍が本学の「就職に強い大学」としての社会的評価に現れています。

中長期計画の5年目を迎え、事業推進が本格化しています。そして本年は社会環境の変化と事業の進捗を踏まえ5年目以降に向けた改訂に着手します。PDCAサイクルの循環を着実に図り、さらなる事業推進の本格化を図るとともに、全

教職員が信頼関係のもと分かち合いながら、学園の理念や組織目標を共有、役割認識や協力を重視することでより大きく前進する考えです。そしてすべての前提として、財政健全化が重要課題であることに変わりはありません。「財の自由なくして学の自由なし」です。無駄を排除する一方で、他校に追随するのではなく、本学に必要なものを追求し、さらに充実させていきます。もちろん学校といえども組織体である限り、さらなるガバナンス体制の確立が求められるのは当然でしょう。

2018年は、「最高の教育を目指し連携・協力、新たなTDUを創造する年」として、様々なチャレンジが続きます。4月には理工学部^{じっせんち}に新学系を、工学部第二部に社会人課程（実践知重点課程）を設置しました。さらに東京千住キャンパス5号館に開設した実学尊重を具現化する「ものづくりセンター」の本格運用をスタートさせるとともに、情報環境学部等の千住移転を実施しました。文部科学省私立大学研究ブランディング事業の推進も図ります。

学校は多くの関係者の皆さまに支えられる存在です。昨年度は大口寄付も数件頂けた次第です。学園創立100周年宣言ではそうした皆さまを含み「東京電機大学人の基本姿勢」(P.1掲載)を宣言しました。東京電機大学の未来は私たちの手の中にあります。「東京電機大学人」として深い愛校心を原動力に、「超我の奉仕」の精神で本学園のさらなる飛躍に尽力してまいります。



創立から今日まで
— 私たちの理念

技術で社会に貢献する人材の育成を目指して

若き技術者が技術者のための学校を創立

本学園は1907(明治40)年、「社会の第一線で活躍できる技術者を育成し、工業の発展を目指す」を建学の精神として、東京・神田に電機学校として創立されました。

当時は、西洋文明の導入により優れた技術や最新の機械が次々と輸入されてきましたが、これを駆使できる技術者がわずかという状況でした。若い技術者であった創立者の廣田精一、扇本眞吉は、このような状況は国の発展に大きな障害となると考え、工業教育の普及こそが国家発展の基であるとの識見にたち、技術を学ぼうとする者に広く門戸を開きました。

開校当日は生徒わずか14名の小さな学校でしたが、「先駆的なこと、革新的で創造的なこと、それらすべてに対して、あれほど大胆で意欲的であった教育者を見たことがない」と言われる程の熱意、教育理念が高く評価され、校勢は瞬間に拡大していきました。その精神は本学園の伝統として脈々と受け継がれ、2017(平成29)年に、学園創立110周年を迎えました。そして、さらに次の100年に向け歩み続けています。

創立者

廣田 精一(1871~1931)

広島県生まれ。1896年東京帝国大学工科大学卒業。高田商会に在籍のままドイツシーメンス・ハルスケ電気会社入社、その後欧米諸国を視察して帰国。1907年扇本眞吉とともに私立電機学校設立、1914年オーム誌創刊、1916年組織を財団法人に改め、総務理事に就任。1921年現神戸大学工学部を創立。電気自動車の開発にも力を注ぎ、エジソンにも面会した。



扇本 眞吉(1875~1942)

岐阜県生まれ。1902年東京帝国大学工科大学卒業。ドイツシーメンス・ハルスケ電気会社、深川電燈株式会社、江ノ島電気鉄道株式会社等に奉職。1907年廣田精一とともに私立電機学校を設立し、初代校長として尽力。1916年組織を財団法人に改め財務理事に就任。専心その任にあたる。



「実学尊重」「学生・生徒主役」「技術は人なり」

3つの主義

生徒第一主義

「学校の存在も細目の校務も、生徒を前提とする。(中略)生徒に對しよい学校にすることを根本義とした」

教育最優先主義

「叱ることは良くない。教師の最も注意すべきことは、自分が偉いように錯覚し、また自分が生徒より長年かかって現在の学力があることを忘れていのである。(中略)教師であれば初心者にもわかるように説明する方法を考えよ。それができなければ、現代に生きる資格がないと反省せよ。叱る先生には先生たる資格はない。先生にはただ、愛を必要とするのである。懇切親愛こそが、先生の価値である」

実学尊重

工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指した。そのために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作するなど、充実に努めた。

今につながる創立時の教育理念 — 創立者の言葉から

「考える、とは何かと問い、考える、とは何かと考えつづける。これが、すなわち教育である。ティーチング・ラーニング(一方的に教師が知識を教え、生徒はそれを受けてただ反復するだけの詰め込み教育)などエデュケーションの名に値せず」

「知識は紙によって伝えられる。学生は紙に書かれた知識をどれだけ記憶したか、によって試されるのではなく、その知識の先に何があるのか、それをどこまで透察したかによって試されなければならない」
「現代社会に試験制度は欠かせないであろうが、しかしそれは必要悪であることを自覚せよ。大事なことは試験制度を一人歩きさせてはいけないということだ。試験制度が一人歩きするようになれば、人が試験をつくるのではなく、試験が人を作るようになる」

「技術は人なり」

「私は技術も文学や美術と同じく、やはり人が根幹をなすものであることを申し述べたいのであります。すなわち「技術は人なり」というのです。立派な技術には立派な人を要するのです。よき技術者は人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に「人」にならなければならない。技術者は常に人格の陶冶を必要とするのです」

「技術を構成する要素には、それぞれの自然法則が応用されるのでありますが、これを構成して大きな総合技術を完成するには、技術者の構想を多分に必要とするのであります」

「専門学科目の精選充実を図るとともに、実験及び実習を重視する。特に従来の学校教育の習得偏重を排し、技術者として実地に測する物の製作技術を修得し、且つ勤労の精神を涵養する目的を以て已に実習工場を設けてあるが、新制大学としても益々之を拡充する」(大学設置認可申請書より)

※「」内は本学園の年史等より抜粋(出典記載のあるものを除く)

大学設立

1949(昭和24)年、民主的社会人としての教養を涵養するとともに広く技術に関する学芸を教授研究し、学生の智的・道徳的・応用的能力を展開させることを目的に、「実学尊重」を建学の精神として、「東京電機大学」を設立しました。

初代学長には、ファックスの育ての親で日本の十大発明家に数えられる丹羽保次郎博士を迎えました。丹羽博士の「技術は人なり」は大学の教育・研究理念として、また中学校・高等学校の校訓「人間らしく生きる」として、今日に受け継がれています。



学園創立100周年記念式典。2007(平成19)年9月11日。



2012(平成24)年開設当初の東京千住キャンパス。



▲丹羽保次郎博士が開発したファックス。1928(昭和3)年、NE式電送装置実用化に成功。

◀文化勲章受章時の丹羽先生

初代学長

丹羽 保次郎(1893~1975)

三重県生まれ。1916年東京帝国大学工科大学電気工学科卒業。逓信省電気試験所、日本電気株式会社に勤務。1924年に欧米を視察し帰国後、写真電送の研究に取り組み有線写真電送装置を発明した。日本初の写真電送装置(ファクシミリ)として、昭和天皇即位式のニュース写真の電送に用いられ優れた成績を上げ、世界で広く普及。さらに無線写真電送の研究に着手。1929年、東京・伊東間で日本初の長距離無線写真電送の実験に成功。1949年東京電機大学の初代学長に就任。1955年(社)テレビジョン学会初代会長。1959年に文化勲章、1971年に勲一等瑞宝章を授与される。日本の十大発明家に数えられる。

沿革

- 1907 電機学校を東京・神田に創立(創立者:廣田精一・扇本眞吉)。「生徒第一主義、教育最優先主義、実学尊重」を基本方針とする。
- 1914 科学技術誌「オーム」発刊(現在のオーム社に発展)。
- 1924 ラジオ実験放送を開始(NHKは1925年実験放送を開始)。
- 1928 丹羽保次郎博士が写真伝送(現在のファックス)に成功。本学実演室で、高柳健次郎氏による日本初のテレビ公開実験。
- 1948 電機学園高等学校開学(現・東京電機大学高等学校)。東京・秋葉原に秋葉原電気街誕生。本学が育ての親と言われる。
- 1949 東京電機大学開設、工学部第一部設置、初代学長・丹羽保次郎博士の「技術は人なり」を教育・研究理念に。建学の精神は「実学尊重」。
- 1950 東京電機大学短期大学開設(夜間)。
- 1952 工学部第二部設置(夜間)。
- 1958 大学院開設(日本初の夜間大学院)。
- 1962 第2代学長阪本捷房博士が日本ME学会(現・日本生体医工学会)を創立。
- 1970 パソコン創成期に先導的役割を果たす。
- 1977 理工学部開設(埼玉鳩山キャンパス)。
- 1990 千葉ニュータウンキャンパス開設。
- 1992 東京小金井キャンパスを開設し高等学校移転。
- 1996 東京電機大学中学校開校。



- 2000 東京電機大学TLO(技術移転機関)が承認される。
- 2001 情報環境学部を千葉ニュータウンキャンパスに開設。
- 2006 大学院先端科学技術研究科を開設。
- 2007 学園創立100周年。未来科学部開設、全学的改編を実施。
- 2010 (財)大学基準協会による大学基準適合認定。
- 2012 東京千住キャンパス開設。
- 2017 学園創立110周年。システムデザイン工学部開設、大学基準適合認定。

基本情報

学校法人東京電機大学の概要

2018(平成30)年5月現在

創立：1907(明治40)年9月11日
 理事長：加藤 康太郎
 監査法人：新日本有限責任監査法人
 教職員数：609名(教員数423名、職員数186名)
 設置学校：**東京電機大学**

- 大学院**
- 先端科学技術研究科(博士課程(後期))
 - 工学研究科(修士課程)
 - 理工学研究科(修士課程)
 - 情報環境学研究科(修士課程)*1
 - 未来科学研究所(修士課程)

- 工学部**
- 電気電子工学科
 - 電子システム工学科
 - 応用化学科
 - 機械工学科
 - 先端機械工学科
 - 情報通信工学科

- 工学部第二部**
- 電気電子工学科
 - 機械工学科
 - 情報通信工学科

- 未来科学部**
- 建築学科
 - 情報メディア学科
 - ロボット・メカトロニクス学科

- システムデザイン工学部**
- 情報システム工学科
 - デザイン工学科

- 理工学部**
- 理工学科
 - 理学系
 - 生命科学系
 - 情報システムデザイン学系
 - 機械工学系
 - 電子工学系
 - 建築・都市環境学系

- 情報環境学部***1(2017(平成29)年度より募集停止)
- 情報環境学科

東京電機大学高等学校

全日制課程 普通科

東京電機大学中学校

研究推進社会連携センター：

総合研究所 サイバー・セキュリティ研究所/レジリエントスマートシティ研究所/
 医療・福祉機器開発・普及支援センター/先端レーザー技術研究所/
 知能創発研究所

研究推進部
 地域連携推進センター
 産官学交流センター

ものづくりセンター

インスティテューショナル リサーチ センター

総合メディアセンター

東京電機大学出版局

*2

キャンパス所在地：

東京千住キャンパス

- 法人・大学本部
- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院工学研究科
- 大学院情報環境学研究科*1
- 大学院未来科学研究所
- 工学部
- 工学部第二部
- 情報環境学部*
- 未来科学部
- システムデザイン工学部
- 総合研究所



埼玉鳩山キャンパス

- 大学院先端科学技術研究科
- 大学院理工学研究科
- 理工学部
- 総合研究所(埼玉共同利用施設)



千葉ニュータウンキャンパス

- 千葉ニュータウンキャンパス 千葉県印西市武西学園台2-1200
- 総合研究所(千葉共同利用施設)



東京小金井キャンパス

- 東京小金井キャンパス 東京都小金井市梶野町4-8-1
- 中学校・高等学校



東京神田キャンパス

- 東京神田キャンパス 東京都千代田区内神田1-14-8
- 出版局



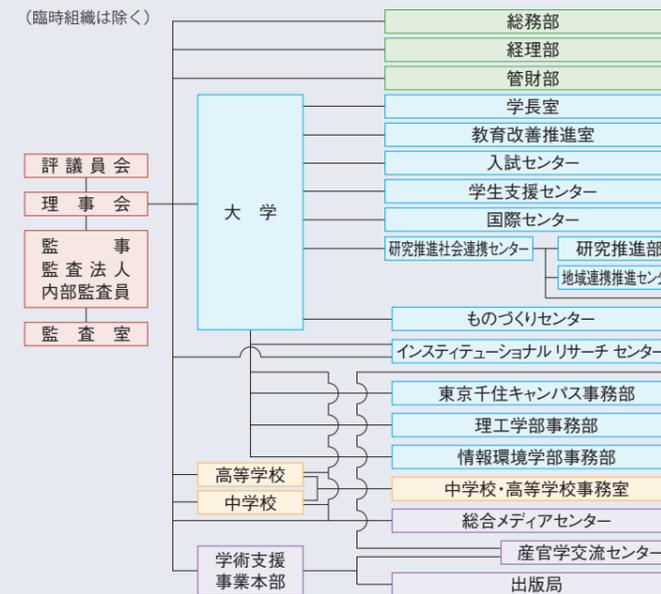
*1 情報環境学部および関係する研究科は、2018(平成30)年4月に千葉ニュータウンキャンパスから東京千住キャンパスへ移転しました。
 *2 出版局は2018(平成30)年9月に東京千住キャンパスに移転予定です。

経営体制

ガバナンス体制

- 理事会は現在、理事15名および監事2名で構成し、経営、管理運営および業務執行に関する重要事項を審議するため、8月を除く毎月1回開催し、また必要に応じ臨時に開催しています。
- 常勤理事会は理事長、学長、常務理事および本法人の身分を持つ理事で構成し、意思決定の迅速化、権限と責任の明確化等を図るため、理事会付議事項の審議および理事会の委任業務について決定し、毎週1回を原則に開催しています。また必要に応じ、監事、卒業生理事等の出席を要請しています。
- 常務理事、担当理事を配置し、学園運営にあたっています。
- 監事は、2名のうち1名はこれまで本法人の役員または職員でなかった者を選任。理事会に出席し、法人全般の業務や財産の状況を監査します。また、監事監査、会計士監査、内部監査の三様監査の体制をとっています。
- 評議員会は学識者、卒業生、教職員など50名近くで構成し、予算と決算を含む学園経営の重要な事項の諮問や決定を行う機関として、年数回開催しています。

管理運営組織(事務組織)



学校法人東京電機大学 理事・監事

カッコ内は担当部門 ※は主担当 敬称略で記載しています。



理事

- 加藤 康太郎 理事長
- 安田 浩 学長
- 小池 強 常務理事(法人全般、キャンパス活用・拡充、募金)
- 射場本 忠彦 常務理事(※キャンパス活用・拡充)
- 平栗 健二 統括副学長・工学部教授(大学・大学院、キャンパス活用・拡充)
- 積田 洋 未来科学部長・未来科学研究所委員長
- 大久保 靖 中学校・高等学校長(中学校・高等学校、入試・広報、教職員組織・労務(給与体系))
- 川井 悟 理工学部長(入試・広報、教職員組織・労務(給与体系))
- 佐藤 龍 総務部長(出版局、※教職員組織・労務(給与体系))
- 渡辺 貞綱 前一般社団法人東京電機大学校友会理事長(情報、募金)
- 松尾 隆徳 一般社団法人東京電機大学校友会理事長(校友連携)

- 高井 裕司 システムデザイン工学部教授(情報、学務・教育研究推進・社会連携)
- 石塚 昌昭 元社団法人東京電機大学校友会理事長(※財政健全化(給与体系)、※募金)
- 櫻村 幸辰 元理工学部教授(財政健全化(給与体系))
- 工藤 智規 元公立学校共済組合理事長

監事

- 高 為重 元財団法人私立大学退職金財団常務理事
- 別府 明雄 元株式会社テレビ東京、元板橋区教育委員会教育委員長

顧問

- 吉川 弘之(学術顧問) 元日本学術会議会長、元東京大学総長、元放送大学学長、元(独)産業技術総合研究所理事長、(国研)科学技術振興機構上席フェロー
- 古田 勝久(学事顧問) 前東京電機大学学長、元学校法人東京電機大学理事

特集
1

「セキュアIoT生体医工学」=「東京電機大学」 高度セキュアIoT医療機器システムの研究開発

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業(世界展開型)に選定

1 研究ブランドの構築

本学では、長年にわたる医用工学研究とサイバー・セキュリティ研究の実績を融合し、「高度セキュアIoT医療機器システムの研究開発」を立ち上げ全学的取り組みを開始しました。これは、医療機器の高度化・セキュア化をはかり、人々の健康・安全・安心に貢献するとともに、その成果をアジアへ展開しようとするものです。これにより「セキュアIoT生体医工学」=「東京電機大学」の研究ブランド構築を目指します。(「グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体医工学拠点の形成」として文部科学省 平成29年度私立大学研究ブランディング事業に選定)

2 医療機器とサイバー・セキュリティの融合

医療現場ではIoT技術の導入で、医療機器間の情報交換が可能になるとともに、サイバー・セキュリティ技術の導入が課題になっています。一方、広範囲で迅速な情報収集の実現で、治療の効率化、医療行為の総合化が促進され、医療の質の向上が期待されます。

また、政府は東南アジア諸国に病院建設等の支援を行い、多くの日本製医療機器を設置してきましたが、支援体制が十分でなく故障が生じると欧米製品に置き換わる現状があります。

そこで本事業では、保守・修理が容易で安全なリモートメンテナンスが可能なセキュアIoT医療機器システムの開発とともに、本学教育カリキュラムの拡充によるアジアを含めた人材育成を目指します。研究開発の重点技術は以下の通りです。

- サイバー・セキュリティ技術
- 先進的ME技術
- 融合技術

3 安全・安心・快適な社会の未来創造

阪本捷房第2代学長は、日本生体医工学会の初代会長でもあり、この分野の教員は約50人にのぼります。本研究は「サイバー・セキュリティ研究所」(佐々木良一所長)「医療・福祉機器開発・普及支援センター」(土肥健純センター所長)の実績を踏まえ推進するものです。

研究ブランディング事業



研究者紹介



佐々木 良一 特命教授
サイバー・セキュリティ研究所長

2002年情報処理学会論文賞受賞、2007年総務大臣表彰など。デジタル・フォレンジック研究会元会長、元内閣官房サイバーセキュリティ補佐官。



土肥 健純 特命教授
医療・福祉機器開発・普及支援センター所長

情報・機械技術と臨床医学を融合した「コンピュータ外科」の概念を立ち上げ、外科手術支援ロボット、介護機器の研究開発に取り組む。国際コンピュータ外科学会・元会長、日本生体医工学会元会長、ライフサポート学会元会長他多数。

特集
2

創意工夫を育み、「つくりたい」をバックアップ ものづくりセンター 本格運用スタート

1 ものづくりセンターの設置目的

本学園の建学の精神「実学尊重」を具現化するための施設として「ものづくりセンター千住」を2017年4月に開設、2018年4月には「ものづくりセンター」を設置、本格的な運用を開始しました。ものづくりセンターは、本学の「ものづくり」の中心として、学生自ら技術的素養を深める教育支援、学内の研究支援、社会貢献としての企業等への技術支援を目指す全学的な組織です。

2 ものづくりセンター千住(東京千住キャンパス5号館1,2階)

「ものづくりセンター千住」は、ものづくりセンターの中核をなす施設です。1階は先端加工、金属加工、多目的(ドローン試験飛行可)などの各スペース、2階は木工・電気・組立スペース、パーツセンターを配しています。マシニングセンタ、金属3Dプリンタなど最先端の工作機械を始め、IoTに不可欠なCAD/CAMや各種測定機器を用意しています。

また、センター製作の試作品展示やウェブページでの各種お知らせ、利用方法等の情報を学内外に広く公開・発信しています。

さらに、工学系学生の素養としての安全教育も推進しており、安全講習会を開催するなど、全学的な標準化を目指しています。

3 ものづくりセンターの展開

今後も利用者のものづくりマインドを尊重し応援するセンターとして、学生対象のものづくり講習を始め、地域貢献に資する子ども向けものづくり教室や各種講習会などを企画、サポート募金で利用者ニーズの高い機器を追加導入するなど、多くの利用者で賑わう、活気と魅力が溢れる「ものづくりセンター」の実現を目指していきます。

東京千住キャンパスにお越しの折には、ものづくりセンターにぜひお立ち寄りください。

URL : <https://www.mono.dendai.ac.jp>



ものづくりセンター多目的スペース



ソディックスペース
(ワイヤー放電加工機)

先端加工スペース
(5軸マシニングセンタ)

ものづくりセンター

スペース名	主な設置機器
1階	
金属加工	普通旋盤、汎用フライス盤、卓上ボール盤、バンドソー
計測CAD/CAM	測定顕微鏡、3DCAD/CAM
溶接・切断	レーザ加工機、アーク溶接機、ガス溶接機、半自動溶接機
先端加工	5軸マシニングセンタ、縦型マシニングセンタ
ソディックスペース	細穴加工機、ワイヤー放電加工機、金属3Dプリンタ
2階	
木工	パネルソー、横切り盤、昇降盤、スライド丸のこ盤、糸のこ盤、卓上ボール盤、両頭グラインダー、ベルトサンダー
電気・組立	信号発生器/Function Generator、直流安定電源、デジタルオシロスコープ、半田ごてセット、卓上ボール盤、3Dプリンタ(樹脂)

学校法人東京電機大学 中長期計画の推進

日本は急速な少子高齢化やグローバル化等に対応するため、IoTやビックデータ、AI等の活用とオープンイノベーションの加速による超スマート社会の実現も提唱されており、情報関連技術者の育成と進化したものづくり教育への期待も高まっています。

本学は、2014年度から10年間を目標とした「学校法人東京電機大学中長期計画~TDU Vision 2023~」を策定し5年目を迎えます。

輝き続ける学園の実現のために、TDU Vision 2023を実行し、さらなる飛躍を目指します。

した。この間、2017年の学園創立110周年を記念して全学的改編を実施すると同時に東京千住キャンパス5号館を開設しました。

本計画を基軸に、縦型・横型統合的教育など特色ある教育の充実と教育成果の向上を図り、理工系教育・研究において新たな価値を創造し、学園のさらなる飛躍を目指します。なお、社会環境や事業推進を踏まえ、5年目を迎えるに向けた計画改訂に着手します。

TDU Vision 2023 の5項目

- 1 大学** 理工系私立大学のトップランナーを目指す
~全学的改編と縦型・横型統合的教育~
- 2 中学校・高等学校** 教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- 3 財政健全化の推進**
- 4 ガバナンス構築と運営組織の見直し**
- 5 推進のための点検評価**

目標達成に向けた主なステップ

- 2023年(平成35年)**
 - 学園の中長期計画の達成
社会環境の変化に対応し輝き続ける東京電機大学の実現
- 2018年(平成30年)**
 - 4月 理工学部3学系 開設
オナズプログラム(次世代技術者育成プログラム)、工学部第二部社会人課程(実践知重点課程)設置
- 2017年(平成29年)**
 - 9月 学園創立110周年
 - 4月 システムデザイン工学部 開設
工学部3学科 開設
東京千住キャンパス5号館 開設
- 2014年(平成26年)**
 - 4月 学園の中長期計画「TDU Vision 2023」の策定



株式会社SUBARU 第一技術本部先進安全設計部

木戸 辰之輔 さん

2008年3月、東京電機大学工学研究科電子工学専攻修了。同年4月、富士重工業株式会社(現 株式会社SUBARU)に入社し、スバル技術研究所に配属。同年10月よりステレオカメラの研究に携わる。2012年9月にスバル技術本部へ異動し、製品化に関する業務に参画。2017年5月より現部署でステレオカメラの未来を見据えた開発を推進中。



体感して理解する電大の学びが大きな力に

印象に残っているのは、アイサイトの研究チームに配属されたとき。最初に「現行アイサイトの不満点は？」と聞かれて「一般道では赤信号で止まってほしい」と答えたら、「そこを頼む」と言われ、結果として機能は違う形となったのですが信号認識の機能開発を任されたのです。大学時代、信号認識を学んだことはありません。そこで役立ったのが、「実験を通して道を開く」という姿勢を、授業や研究室で徹底的に鍛えられたことです。おかげで、研究チームの先輩に「まずは実験してみたら？」と言われたときも、すぐに手を動かすことができました。研究開発職にとって、理論をただ学ぶだけでなく、実験や実習を通じた体感によって理解を深める電大の学びは、大きな力になっていると感じています。

サークル仲間との日々で技術の興味が広がる

ステレオカメラの開発で画像認識やレンズ設計といった新たな技術に触れたとき、その概要をすぐイメージできたのは、所属していたモダンジャズ研究会での会話を通じて、幅広く技術を理解する下地が自然に出来上がっていたからだと思います。モダンジャズ研究会には、ほとんどの学科の人たちが在籍し、部室では世間話や音楽談義と同じレベルで、それぞれが取り組む技術の情報交換もしていました。こうした何気ない日常も、新たな技術に取り組む役に立っていると思います。また、SUBARUのマーケットは現在、北米が中心。そのため、海外の開発エンジニアや販売拠点のスタッフと、英語でメールしたり実際に会って話す機会も少なくありません。いまでも苦労はしていますが、研究室で英文の専門書や論文を読ん



▲ステレオカメラで前方を捉えブレーキなどを制御して高度な運転支援を実現

でいたことから、それほど壁を感じることなく、コミュニケーションできるようになりました。

未来に、新たな『アイサイトショック』を

SUBARUが起こした『衝突回避』というムーブメントは、業界の一部で『アイサイトショック』と呼ばれる新たな価値を生み出しました。そしていま、アイサイト開発チームは、これに続く価値を生み出すため、未来を見据えて、運転支援機能のさらなるレベルアップに取り組んでいます。その中で私は、ステレオカメラ開発チームのマネージャーとして、画像認識を始めとするソフトウェアと、カメラのレンズ設計などを含む幅広い領域を管理し、ステレオカメラの性能向上に取り組んでいます。「アイサイトを、より多くの人たちが手放せなくなるアイテムにすること」。これがいま、私が見据えている次の目標です。

特集

3

卒業生スペシャルインタビュー

世界が注目する先進の自動車技術『アイサイト』の進化を常にリードする卒業生

業界に先駆けて、自動ブレーキをはじめとする運転支援システムの時代を切り開いた、スバルのアイサイト。その中核技術であるステレオカメラの研究から製品化をリードしているのが、本学OBの木戸辰之輔さんです。自動車技術の新たな扉を開く面白さと、その基盤を築いた大学時代の取り組み、そして、見据えている未来について、伺いました。

クルマに、前方を捉える『眼』を

入社以来、ずっとアイサイトに携わっています。アイサイトの特長は、リアルな世界で起こる事象を徹底的に追究して機能を開発し、衝突回避や長距離運転の快適さを、日常の運転で実感できること。この製品化にあたって私は、人間と同じようにクルマの前方を捉える、アイサイトの『眼』となるステレオカメラの開発に取り組んでいます。左右2つのカメラで前方を立体的に捉え、クルマや歩行者などを識別して、距離、形状、移動速度を正確に認識します。この仕事で大きな達成感を得たのは2014年、入社か

ら手掛けてきたアイサイトVer.3が、レヴォーグとレガシィに搭載されたときです。会議室のホワイトボードを使って、ゼロから議論を始めたものが実車に搭載され、マスコミで話題になったり街中で実際に見たときは、素直に嬉しかったですね。



20XX年への展望

第2次産業革命以降、人間の仕事は、機械に置き換わっていききました。そして今、第4次産業革命という新たな時代の到来でこの流れは加速し、現在人間が行っている仕事も、人工知能などに置き換わっていきます。だからこそ、エンジニアに必要なことは、これまでの世の中にまったくなかった答えを導き出し、新しい価値を生み出すことです。クルマ社会ではいま、自動運転がクローズアップされています。しかし、ゴールまでの道筋は、

すでに見たと感じていることから、私が見据えているのは、自動運転の先にある、まったく新しいモビリティ社会です。そこで求められる答えを導き出すため、私は世の中にある既存の答えに満足するのではなく、自ら考えて、数々の実験をやり抜き、ときには良きパートナーと連携して、より高い価値を生み出す。そんなエンジニア像を実現したいと思います。

バランスに優れた高度専門家の育成 社会を安全・安心、豊かに する 新しい学びを創出

AIやIoTなどによる「第4次産業革命」の進展を追い風に、理工系大学に期待される役割が大きくなっています。スマート化が進むこれからの時代に求められるのは、知恵と感性が融合した科学技術です。初代学長が唱えた「技術は人なり」は、今もお東京電機大学に集うすべての人々の心に宿り、人間としての深みも幅も増した真の技術者たちが、新しい未来に即戦力として貢献し続けます。

東京電機大学 学長 安田 浩



総合的な視野で時代の変化に柔軟に 対応し、産業界で広く活躍する人材を育成

人と人をつなぐインターネット時代から、AIやIoT(もののインターネット)の活用が一般化する時代に突入し、日本の産業界に新たな潮流が押し寄せるとともに、学問としての工学のあり方も問われています。たとえば、人間が自動車を快適に運転するためには、エンジンが優れているだけでは事足りません。周囲の情報を取り込み、乗っている人はもちろんのこと、車の周りにいる人たちにとっても安全・安心な状況を作り出すことが求められます。これを実現するためには、従来のように機械工学、電気工学といった専門分野の学問を極めるだけではなく、分野を超えて連携・融合し、総合的な視野に立って新しい価値創造に取り組む「総合工学」の考え方が重要です。

特に近年は、あらゆる知を結集しなければ解決できない複雑かつ高度な課題も少なくありません。無限とも言うべき膨大な情報が手に入る時代だからこそ、世界中で起きていることに広く目を向け、情報を適切に取捨選択し、科学技術が貢献できることは何かを考えることで、より良い解決策が見つかるのです。

本学が文部科学省の支援のもと、「私立大学研究ブランディング事業」として進める「グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体医工学拠点の形成」も、こうした総合工学の視点なくしては成し得ません。これは、長年にわたる医用工学研究とサイバー・セキュリティ研究の実績を融合し、IoT時代に備えた安全・安心な医療機器の開発と技術者の育成を行う事業です。これにより、「セキュアIoT生体医工学」=「東京電機大学」の浸透を図ると同時に、「技術で社会に貢献できる人材の育成」という本学の使命を果たしていく考えです。

全学的改編に伴い、 技術に知恵と感性を加える学びを強化

2017年9月に学園創立110周年を迎えた本学は、さらなる教育効果の向上を目指し、2014年から2023年までの10年間を目途とする中長期計画のもと、さまざまな改革を着々と進めてきました。

中でも最も力を注いできた全学的改編は、順調に完成形に近づきつつあります。2017年4月には、システムデザイン工学部に加え、工学部に電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科の3学科を新設。2018年4月には、理工学部^{じっせんち}に生命科学系、機械工学系、電子工学系の新学系を設置するとともに、工学部第二部(夜間部)に、社会人の学び直しに対応する社会人課程(実践知重点課程)を新設しました。

一方で、こうした全学的改編に対応する“器”の整備も進めてきました。2017年4月、東京千住キャンパスにおける新校舎5号館の完成と同時に、本学の建学の精神「実学尊重」を具現化する施設「ものづくりセンター」の本格運用もスタート。ここでは、金属3Dプリンタや5軸マシニングセンタなどの最先端の工作機械を操作し、作り手の視点からものづくりの原点を体験できます。また、2018年3月には、千葉ニュータウンキャンパスから情報環境学部および同研究科の移転が完了。東京千住キャンパスを中核として、埼玉鳩山キャンパスとの2拠点体制での教育研究環境が整いつつあります。

一連の改編に伴い、当然ながら、学びの質もさらに強化されています。アクティブラーニングや実習演習の積極的導入といった「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択校としての取り組みをはじめ、科学技術者としての良識ある社会人に必要な教養、キャリア意識、倫理観を養う共通教育の枠組み「新共通教育プログラム」の実施、授業時間の統一によるキャンパス間での遠隔双方向授業の活用

など、人間としての深みや幅を広げる学びは、基盤となる技術に知恵と感性を加え、社会を安全・安心かつ豊かにする技術者を生み出します。

専門分野に偏らない高度な技術力と 崇高な倫理観で社会貢献を実現

理工系の専門家はどうかあるべきかについては多くの議論がありますが、私自身は「鳥居型人間像」を推奨します。鳥居は、2本の太い柱で支えられ、そこに3本の横木を渡した構造を持っています。2本の柱は「主専門」と「副専門」、横木は下から順に「教養」「役割分担の自覚」「CAPDC思考」を表し、これらをバランスよく備えた人材こそが、未来を創り出す21世紀型理工学専門家であると考えます。実際、22万人もの卒業生の多くが、鳥居型の高度専門家となって活躍しています。

ここに挙げたCAPDC思考とは、PDCA思考を一步進めたものです。そもそも実行したことのないことについて計画は立てられないことから、まず現状を評価し、改善策を見つけてから、はじめて計画、実行するという考え方です。もちろん、実行後の評価も欠かせません。この思考のもとでは、結果を予測して行動し、予測と異なる結果が生じたときに原因を分析できるため、それが次の失敗を回避する行動につながっていくのです。つまり、どんなに専門技術を駆使しても、こうした思考のないところに優れた製品は生まれないということです。

AIやIoTなどの進化や国連SDGsを追い風に、理工系大学に期待される役割がますます大きくなるなか、本学には、毎年2千名規模の技術者を送り出す土壌があります。その一人ひとりが、初代学長の丹羽次郎先生の名言「技術は人なり」を胸に刻み、人としても技術者としても立派な即戦力となって社会に貢献していくと信じています。

東京電機大学学長
米民生技術協会
(CTA)に殿堂入り

2017年11月、米民生技術協会は、東京電機大学学長 安田浩教授を「デジタル・マルチメディアの先駆者」と称え、2017年度の「The Consumer Technology (CT) Hall of Fame」の1人に選出しました。「CT Hall of Fame」は、科学技術の発展に貢献した人物を称える“栄誉の殿堂”で、安田教授の殿堂入りは、JPEG-1の標準化に重要な貢献を行ったこと、数々の国際マルチメディア技術の標準化を成し遂げ、家庭用デジタルカメラ(ビデオ)の導入と普及にリーダーシップを発揮したことが理由です。



事業報告

2017年度の取り組みと成果

1. 学園創立110周年記念事業
2. 大学・大学院
3. 中学校・高等学校
4. 財政健全化
5. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し
6. キャンパス整備
7. 各キャンパス施設設備の整備
8. その他、継続する諸課題
9. 推進のための点検評価



▶ 序文 ◀

AIやIoTによる科学技術イノベーションは急速に進化し、社会は大きな変革の時代を迎えている。情報化による超スマート社会の実現は国の重要な戦略となり、理工系大学に期待される役割は大きい。2017年度は学園創立110周年、また2014年度からスタートした中長期計画(TDU Vision 2023)の4年目として、建学の精神、教育・研究理念に基づく教育・研究体制の整備等の各種事業を推進した。

『1.学園創立110周年記念事業』については、関係者の連携・協力により全学的改編をはじめとした各種記念事業が順調に行われた。

『2.大学・大学院』では、全学的改編として、2017年4月のシステムデザイン工学部、工学部3学科の新設、2018年4月の理工学部改編、工学部第二部改編の準備、情報環境学部と同研究科の東京千住キャンパスへの移転の準備等を実施した。教育面では、教育改善を着実に実行するとともに社会人学生の受入体制の充実、ものづくりセンター運用体制の整備、大学院改編を推進した。また、研究面では文部科学省私立大学研究ブランディング事業に選定されたほか、グローバル化や社会人教育、地域連携、学生の厚生面・就職面の支援を強化した。学生募集については、18歳人口の継続減少や国の

定員管理厳格化に対応すべく新たな取り組みを開始した。

『3.中学校・高等学校』では、学習・進路指導の連携・協力を図り、グローバル人材育成等、新たな試みを導入したほか、高大連携に向けた協議を開始した。入試志願者数では昨年実績を上回ることができた。

『4.財政健全化の推進』については、厳しい予算編成のなか、翌年度繰越支払資金では支出超過(現金預金の減少)となったが、基本金組入前当年度収支差額では、収入超過を維持することができた。なお、収入面では、学費収入の確保と外部研究資金や新たな補助金獲得による収入増、休退学者縮減を目指した。支出面では、東京千住キャンパス5号館の維持管理費の負担増加と千葉ニュータウンキャンパスの維持管理費の継続負担による支出が増加した。

『5.ガバナンスの構築及び運営組織の見直し』では、大学評議会、大学調整連絡会議の運営実質化を図ったほか、システムデザイン工学部開設や情報環境学部ほかのキャンパス移転を踏まえた教授会等の運営体制を整備した。さらにIR分析等数値に基づく学園事業の分析や効率的運営を行った。

学園創立110周年を契機に、今後も最高の教育を目指し全構成員が連携・協力することで、さらに強いTDUを創造していくこととしたい。

学校法人東京電機大学の 中長期計画について

「学校法人東京電機大学中長期計画
～TDU Vision 2023～」

社会環境の変化に適応し輝き続ける
東京電機大学の実現

- I. 大学・大学院:理工系私立大学のトップを目指す
～全学的改編と縦型・横型統合的教育～
- II. 中学校・高等学校:教育のさらなる充実と財政基盤の安定化
- III. 財政健全化の推進
- IV. ガバナンス構築と運営組織の見直し
- V. 推進のための点検評価

*以下本文については、中長期計画書の項目別に掲載しました。

1. 学園創立110周年記念事業

学園創立110周年、理工学部開設40周年を記念し、全学的改編を含む各種記念事業を実施し、学園関係者の連携・協力を強化することで、さらなる学園力の向上を図った。

1 東京千住キャンパス

[2017年4月]

- システムデザイン工学部新設:情報システム工学科、デザイン工学科
- 工学部3学科設置:電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科
- 未来科学部定員変更:建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科
- 5号館開設:ものづくりセンター設置、業務施設(スポーツクラブほか)入居

[2018年4月]

- 工学部第二部:社会人課程(実践知重点課程)設置、はたらく学生入試導入
- 工学部第二部定員変更:電気電子工学科、機械工学科、情報通信工学科

2 埼玉鳩山キャンパス

[2017年11月]

- 理工学部開設40周年記念式典

[2018年4月]

- 理工学部3学系設置:生命科学系、機械工学系、電子工学系
- オナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)新設
- その他、総合グラウンド整備、バリアフリー化完成、衛星用地上局システム整備ほか

3 千葉ニュータウンキャンパス

[2018年4月]

- 情報環境学部・同研究科の東京千住キャンパスへの移転

4 東京小金井キャンパス

[2017年8月]

- 中学校・高等学校「オルセースクールミュージアム」開催

5 学園広報の推進

- 学園ウェブサイトリニューアル(大学、中学校・高等学校、出版局)
- 記念冊子「東京電機大学 卒業生の活躍と企業紹介」の発行
- 記念講演「電子情報通信工学と東京電機大学」の開催



- 教育改善活動としてPDCAサイクルの起点の3つのポリシーの全学的な検証
- 授業時間および学事日程の全学統一化による、2018年度からの100分授業導入等
- 千住5号館10階の大学院フリーアドレス研究室の運用方針策定と開始

2 社会に貢献する研究活性化による競争的資金獲得の増加

- 外部研究資金のうち科学研究費補助金で約2.3億円、前年比140%達成
- 外部研究資金のうち受託、共同および公的研究費で約4.6億円、前年比190%達成

3 理工学部の周年事業の推進

- 理工学部開設40周年式典・祝賀会および記念シンポジウムの鳩山祭、ホームカミングとの同時開催(11月3日 来場者数:約550名)および記念誌の作成

4 公開講座や産官学連携等を通じた社会貢献の向上

- 各種公開講座の開催
- 地域連携による協議会での共同開発
- 本学教員の特許を企業で実用化した商品の発売

2. 全学的改編への対応

1 新分野を含めた教育・研究組織の再編成(新学部設置を含む)

2 全学的改編を契機とした特色ある教育の充実、活性化(横型統合的教育)

3 柔軟な教育課程を編成するための新しい教員組織の編成

4 東京千住キャンパスに学生定員を集約するI街区(5号館)の活用と教室等の再配置

5 理工学部及び工学部第二部改編計画の策定

上記は、前掲「1. 学園創立110周年記念事業」および「2. 大学・大学院1-1」の通り。

3. 大学院の拡充整備と学士課程、修士課程の統合的教育への移行

大学院修士課程改編の2021年度実施を決定したほか、横型統合的教育の具現化をまとめた。就職環境に影響されにくい大学院進学者数の確保が課題である。

1 学士課程、修士課程6年統合的教育の実施

- 大学院修士課程の改編実施年度を当初予定の2020年度から2021年度に見直し

2 新たな領域の教育課程を展開できる教育システムの構築

- システムデザイン工学研究科(仮称)の2021年度設置
- 横型統合的教育の実質化を目指し、組織や分野を超えた教育並びに研究を行う「創造工学ユニット(仮称)」の基本方針等のとりまとめ

3 博士課程の研究指導ができる研究水準を有する教員組織の編成

4 理工学部と理工学研究科の連携教育としてオナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)を新設

4. 社会人教育の充実

工学部第二部社会人課程(実践知重点課程)の開設準備と募集活動を行った。社会人に、より魅力的で学習意欲が高まるような教育システムが期待される。

1 社会人の学ぶ目的を満たす教育課程の編成

2 学びに適した学習環境、教育方法(遠隔教育を含む)等の整備

3 企業等との連携を含めた教育プログラムの開発

- 工学部第二部(社会人コース)と放送大学との単位互換制度の開始
- 工学部第二部社会人課程(実践知重点課程)の2018年4月設置決定

4 社会人の博士学位取得の拡充

- 先端科学技術研究科での検討、WG設置と具体策の検討

5. 研究推進、支援の実施

文部科学省私立大学研究ブランディング事業に選定されたほか、研究活動への大学院生、学部生の参加意識の醸成等を行った。今後は、研究推進、支援体制の整備が望まれる。

1 研究活動を通じて得られた成果の教育(特に修士課程)への展開

- 総合研究所研究課題への大学院生参加数の増加
- 研究推進社会連携センター主催のCRCフォーラムへの学生参加数の増加

6. グローバル化の推進

本学に相応しいグローバル化の積極的な推進と環境整備を行い、一定の成果を得た。

1 アドミッションポリシーに基づく、意欲ある外国人留学生の積極的受入れ

- 外国人特別選抜入試で志願者が195名(前年度151名)で増加

2. 大学・大学院

全学的改編として、2017年4月にシステムデザイン工学部および工学部3学科を東京千住キャンパスに開設した。さらに2018年4月の理工学部3学系新設、工学部第二部改編を行い、情報環境学部と同研究科の千住移転を準備、実施した。教育面では、大学教育再生加速プログラム(以下、APと言う)の推進や新共通教育プログラムの導入、授業時間や学事日程の全学統一化を準備し、ものづくりセンターの運営体制を整備する等教育改革を推進した。大学院改編については実施年度を2021年度に見直すことを決定した。研究面では、文部科学省私立大学研究ブランディング事業に選定されたほか、プロジェクト研究所の活動をはじめ社会の課題に則した研究を推進した。グローバル化では留学生志願者の増加等の成果をあげた。社会人教育や地域連携の充実、学生の多様化に応じた厚生面・就職面の支援の強化を図った。学生募集については国の定員管理厳格化のなか新入試制度の導入等2018年問題、大学入学共通テストへの対応を準備した。

1. 理工系私立大学のトップを目指す(同種同規模校)

全学的改編の指針である縦型、横型統合的教育の実現に向け、学部・学科等の改編を推進した。新共通教育プログラムの導入、ものづくりセンター本格運用の準備を行ったほか、外部研究資金獲得に注力し前年実績を上回った。また、理工学部開設40周年記念式典の開催、各種公開講座の開催や産官学連携による商品開発も行った。

1 特色ある教育推進と大学院進学率40%の実現

- PBLをはじめとしたアクティブラーニングにおける授業デザインのワークショップ開催や成果発表会の開催等の導入支援
- 全学的改編における共通教育の改革での千住の自然科学系列の設置。また、横型統合的教育としての新共通教育プログラムについて、千住の昼学部における2017年度導入および2018年度導入に向けた理工学部での準備
- ものづくりセンターの講習会や説明会開催や2018年度の本格運用に向けた準備
- APの推進としてのPROGの実施と集計・報告、フォーラム開催



- 「日本語学校が選ぶ留学生に勧めたい進学先 大学(理工系)」部門で6年連続入賞
- 海外協定校との連携強化により8名の留学生を受入れ(研究生含む)

2 日本人学生の海外留学・海外派遣数の拡大

- 募集方法の工夫や海外の大学との協定締結の増加

3 大学のグローバル化に向けた支援活動

- 入学後の支援として留学生共通科目10科目を開講
- 奨学金の支給や生活相談等を実施
- 教職員向けのSDプログラムや学生の個別英語学習を実施



7. 学生確保(質及び量の確保)

2018年度入試でのセンター、一般入試志願者数は 23,156名で若干減少したが(2017年度23,254名、前年比99.6%)入学定員は確保した。全学的改編の特別広報活動を展開した結果、理工学部の志願者は大幅増となった。一方、大学院は定員確保に至らなかった。受験界の動向を踏まえつつも、本学の教育理念に合致した熱意ある新入生を受け入れる入試制度が期待される。

1 受験者及び入学者の質の向上策の展開

- 数学満点選抜方式、はたらく学生入試、センター利用入試(後期)の導入
- ウェブやDMでの資料請求や出願促進(「第32回全日本DM大賞」銀賞受賞)

2 学生募集、広報運営に関する体制の整備

- 全学的改編に関する理工学部、工学部第二部の特別広報の展開

3 学生募集に関するデータ類の整備、分析

- 全学的改編及び大学入学共通テストの分析と対応策
- 18歳人口減少開始以降における広報プランの策定

8. 学生支援体制の確立

厚生面では、仲間づくりの支援と学生相談体制の連携強化を図り、休退学防止策を充実させた。

一方、就職面では売り手市場の環境下でもあったが、内定率は大学院 100%、学部 99.4%(工学部第二部除く)を達成し、「就職に強い大学」のブランドを堅持した。

1 厚生補導体制の充実と休退学者等の縮減

- 上級年次生をファシリテーターとして活用したリーダーシップキャンプ及び新入生オリエンテーションにおける仲間づくり支援の実施
- 悩みや障がいを抱える学生への学生相談室、学科、学系、事務部の対応の連携強化
- 修学指導スケジュール、特に面談指導の早期化による休退学防止策の充実
- 仲間づくりイベントであるスポーツ大会や後期クラブ勧誘の実施形態の改善実施

2 就職支援体制の充実

- 低学年からのキャリアデザインプログラムの実施
- 夏季、冬季、春季インターンシップの実施
- 全学年を対象とした公務員講座の開催
- 就職活動支援対策セミナーの実施
- SPI対策講座、SPI模擬試験の実施
- TOEIC®のスコアアップ対策講座及び学内TOEIC®試験受験の奨励
- インターンシップガイダンスの開催



9. 社会貢献の推進

本学の特色である工学部第二部、国際化サイバーセキュリティ学特別コース等の展開や、キャンパス所在地の自治体をはじめとした学外との連携促進を図った。

1 講義のウェブ配信、有料講座導入の企画、実施

2 新規事業の企画、構想(対象年齢や開講分野等)の策定

- 工学部第二部 実践知プログラム(履修証明制度)の広報展開

3 各キャンパス等の地域連携の活性化

- 協定書を締結した6つの自治体との連携交流に関する協議会開催
- 各キャンパスでの子ども向け等の公開講座開講
- 足立区創業支援施設かけはしの運営に関する支援
- 産官学交流に関する諸事業の展開

4 出版局との連携を視野に入れた社会貢献活動の実施

- 新刊書籍を刊行した本学教員等による企画検討



3. 中学校・高等学校

教育改善と高大連携を、次期学習指導要領改訂を見据えて図ったほか、理工系のイメージを意識した広報活動を展開した。グローバル人材育成プログラムの導入、TDU4D-Lab、オルセースクールミュージアムの開催等、新たな試みを実施し、学習・進路指導の連携・協力を図った。中長期計画における指標の一つである国公立大学合格実績では、当初目標値には至らなかったが、中高の入試志願者数では、昨年実績を上回ることができた。今後は、自立的運営を目指す収支改善を継続し、社会環境や現状を踏まえた高大連携の着実な推進が求められる。

1. 教育改善と高大連携

1 国公立大学現役合格者数30名以上

- 2018年3月卒業生245名中、25名合格(既卒生を含め34名合格)

2 校務分掌体制、学校組織の刷新、クラスの効果的編成の検討

- 各部門の連携強化、補助者採用等による教員の事務負担の軽減

3 進路指導の新提案の検討、実施

- 指標の設定による模擬試験評価の明確化と進路指導部と担任による個別指導の実施
- グローバル人材育成プログラムの導入
- TDU 4D-Labにともなうジェネリックスキル測定の確認と教授法研究の推進

4 学習指導の新提案についての検討

- 2018年度導入を目指した教科ルーブリックの完成

5 高大連携の推進

- 東京電機大学との教育面における連携体制構築のための本格協議に向けた準備開始
- 一般入試における東京電機大学合格実績向上への取り組み

6 部活動の整理

7 短期、中期計画で定めた活動の点検・評価目標の再設定等



2. 収支改善

1 事業活動収支差額比率0%(達成目標年度:2017年度)

2 学費改定

- 当初計画に則り2018年度高校入学生からの改定を決定

3 校務運営体制の見直し

- 1-2と同じ

4 所沢グラウンド賃借料解消

5 事業活動収支差額比率2%(達成目標年度:2020年度)

- 36学級の維持と2018年度入学者の確保
- サポート募金による募金活動の強化と寄付先新設の検討



3. 継続課題

1 生徒募集、広報活動の強化

- オルセースクールミュージアム開催による新規顧客層の開拓と塾・中学校訪問の展開、ウェブ活用による説明会申込や出願受付

4. 財政健全化(2020年度目標:事業活動収支差額比率10%超)

資金収支では依然として支出超過(現金預金の減少)となったが、事業活動収支では基本金組入前当年度収支差額が収入超過となった。なお、収入面では、財政健全化実行計画に基づき、設置各校における学費値上げを決定し、外部研究資金や新たな補助金獲得による収入増とともに、休退学者の縮減による収入を確保した。支出面では、東京千住キャンパス5号館の維持管理費の負担増加と千葉ニュータウンキャンパスの維持管理費の継続負担による支出が増加した。

1. 学費改定による学生生徒等納付金を含む各種収入の増加

- 大学院学費の2019年度入学者、大学学費の平成2018年度入学者の値上げ決定
- 高等学校学費は2018年度入学者の値上げ決定

2. 事業活動収入に対する人件費比率45%以下を目指す人件費を含む経費の削減

- 「大学教員人事制度検討概要」の導入にともなう給与体系見直しの再検討

3. 予算枠見直しによる経費の削減

- 情報環境学部と同研究科の東京千住キャンパス移転にともなう、関連する事務部署経費の予算のスリム化策定
- 千葉ニュータウンキャンパス維持管理費予算の大幅削減

5. ガバナンスの構築及び運営組織の見直し

大学評議会、大学調整連絡会議の運営実質化を図った。システムデザイン工学部開設、情報環境学部移転を見据えた教授会等の効率的運営、事務体制の整備を行った。責任の明確化、IR分析等、数値に基づく学園事業の分析や効率的運営を推進した。

1. ガバナンスの構築、内部監査、コンプライアンス体制の充実

- 1 情報戦略、IRに関する体制の確立**
- 2 内部監査、コンプライアンス体制の充実**
 - 年間監査計画に基づく監査の実施と結果のウェブサイトでの学内公表
 - 監査法人、監事、内部監査員による情報交換の実施
- 3 IRデータの整備(教学系・法人系)**
 - 入試、教育改善、学生厚生、教員評価のデータ集計・分析
 - AP対応データの整備
- 4 IRデータ利活用の促進(教学系)**
 - BIツールのアカウント整備と利用促進とウェブサイトによる情報公開
- 5 IRデータ分析支援の推進(法人系)**
 - 人事カードの電子化、校友会データベースの整備、BIツールの整備・普及



2. 管理運営組織の見直し

- 1 全学的改編を踏まえた管理運営組織の整備**
 - 東京千住キャンパス学部長連絡会の定期開催による教職協働体制の整備
- 2 教職員の意識改革と業務改善(PDCAサイクルの循環等)の推進**
 - マネジメントレビューの実施とPDCAサイクルに基づく事業計画の推進



3. 人事諸施策の策定

- 1 給与体系の見直し**
 - 「大学教員人事制度検討概要」による給与体系見直しの再検討
- 2 評価システムの導入**
 - 大学教員評価の3年間の模擬施行による受審率97%の達成
- 3 望まれる教職員像の確立と使命自覚の徹底**
 - 中学校・高等学校が求める教員像の決定

6. キャンパス整備

情報環境学部と同研究科ほかの東京千住キャンパスへの移転を順次実施したほか、既存キャンパスのアメニティーの整備を行った。千葉ニュータウンキャンパスの暫定運用方針を設定したほか、東京神田キャンパスの売却を決定し、出版局の移転準備を行った。

1. 東京千住キャンパス第2期計画(I街区)の供用開始と運用

- 情報環境学部と同研究科ほかの東京千住キャンパス移転の実施

2. 東京千住キャンパスへのキャンパス集約に向けた検討

- キャンパス人口の増加にともなう学生食堂等の充実と教室運用の効率化

3. 東京千住キャンパスへの集約後の各キャンパスの活用方法等の策定



1 東京千住キャンパス(アネックス)の利活用策

- 1と同じ

2 東京神田キャンパス(15号館)の利活用策

3 千葉ニュータウンキャンパスの利活用策

7. 各キャンパス施設設備の整備

各キャンパスの教育・研究等にかかわる施設設備の充実を図った。埼玉鳩山キャンパスでは開設40周年記念として衛星用地上局システムを設置した。

1. 主たる施設設備の中長期更新、改修計画に基づく事業の推進

- 埼玉鳩山キャンパス空調機更新および本館ほか外壁の改修

2. キャンパスアメニティー向上等のための施設設備の更新

- 東京小金井キャンパス小ホールの改修

3. 情報インフラの整備拡充、ICTの面からの教育研究活動の支援

- 基幹ネットワークシステム、教育研究システム等の更新



8. その他、継続する諸課題

卒業生との連携強化を図ったほか、募金や出版活動、その他理事会付帯事項の推進を図り、一定の成果を得た。

1. 卒業生連携と募金活動

- 1 卒業生(校友会)との連携強化による強い学園創造への取り組み**
 - 準会員を対象に登録会員情報の確認と再加入案内の発送による会員増強策実施
 - 正会員を対象に技術士等有資格者調査の実施
 - 校友会メールマガジンの配信開始と仕事研究セミナーの開催

2 「学校法人東京電機大学サポート募金」活動のさらなる推進

- 東京千住キャンパス5号館のサポート募金寄付者銘板設置

2. 出版局

- 1 収益事業である出版事業の体制再構築**
 - 出版環境や事業モデルの再確認と売上分析に基づく出版事業の展開
- 2 出版事業の継続と企画、編集体制の強化**
 - 2018年夏を目途にした東京千住キャンパス移転による中長期計画の見直し

3. 理事会付帯事項等について

1 「嘱託制度等の見直しの再検討」に係る新たな方針について(2014年9月16日常勤理事会決定)

- | | |
|---|---|
| 大学 | 中学校・高等学校 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●3年間にわたる教員評価模擬施行による受審者数増(97%) ●2018年度からの「教員の自己点検評価」制度の構築 ●2019年度から適用の「大学教員人事諸制度」の策定 ●履修者10名未満の科目の原則開講中止の方針決定(2018年度全学部で運用開始) | <ul style="list-style-type: none"> ●定年延長者の持ち時間数の専任同等の扱いおよび副担任配置の実施 ●非常勤教員の無期労働契約転換および臨時的任用教諭制度の設定 |



9. 推進のための点検評価

2018年度に、中長期計画を策定し5年目を迎えるため、5年が終了した段階で、社会情勢の変化や事業進捗状況に応じた見直しを図ることとした。

財務情報

- 財務ハイライト
- 資金収支計算
- 事業活動収支計算
- 貸借対照表



財務の概要 (2017年度)

※千円単位および百万円単位等で表示する際に単位未満を四捨五入しているため、端数調整のため差異が生じる場合があります。また、予算、決算において、全て0円の科目は表示を省略しています。

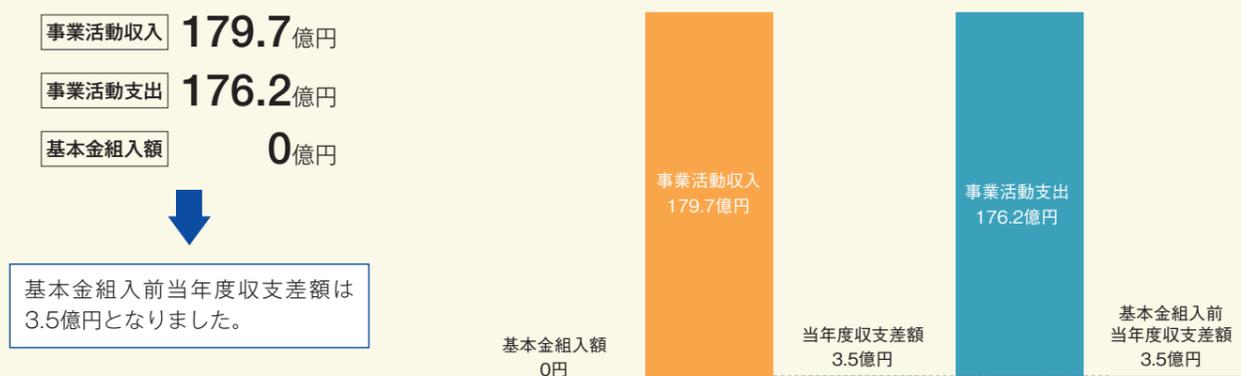
財務ハイライト

学校法人東京電機大学の2017年度決算は、2018年5月29日開催の評議員会・理事会において承認されました。2017年度決算の概要は、予算(2017年3月28日評議員会・理事会承認)との比較において、次のとおりです。

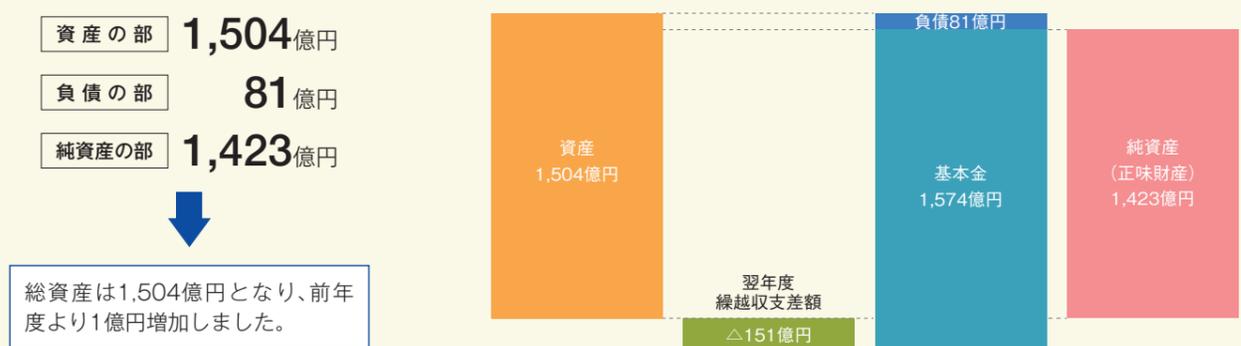
資金収支計算



事業活動収支計算



貸借対照表 2017年度末(2018年3月31日)



2017年度に学園が優先的に取り組んだ主要事業の経費

【一般会計】

事業内容	経費
埼玉鳩山キャンパス 12号館空調機改修工事	60,750
埼玉鳩山キャンパス 6号館トイレ改修工事	
東京小金井キャンパス 1号館小ホール改修工事	
計	60,750

事業内容	経費
埼玉鳩山キャンパス 高速液体クロマトグラフ機器 (HPLC) および HPLC用GPCカラム	6,199
計	6,199

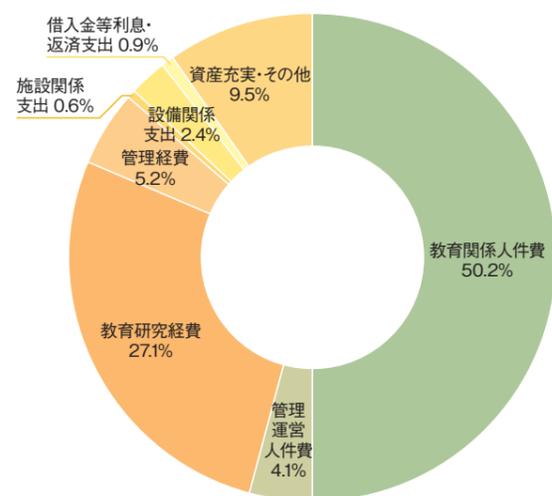
【特別事業会計】

事業内容	経費
東京千住キャンパス等整備関連事業 I街区建物工事関連経費	154,314
計	154,314

事業内容	経費
埼玉鳩山キャンパス 40周年記念事業低軌道衛星地上局システム	113,400
埼玉鳩山キャンパス 10号館空調機更新工事	111,240
埼玉鳩山キャンパス 5・9・10・11・12号館外壁改修工事	115,441
基幹ネットワークシステム更新関連事業	717,378
大学教育研究システム更新関連事業	68,738
中学校・高等学校教育システム更新関連事業	29,376
サーバプラットフォーム更新関連事業	30,877
特別広報費	29,922
計	1,216,372

学費・補助金収入の使われ方 (2017年度決算数値より)

2017年度の学費収入と国や地方公共団体等からの補助金収入を100とした場合の使用状況は次のとおりです。



経費の内訳	比率
教育関係人件費	50.2%
管理運営人件費	4.1%
教育研究経費	27.1%
管理経費	5.2%
施設関係支出	0.6%
設備関係支出	2.4%
借入金等利息・返済支出	0.9%
資産充実・その他	9.5%

次のページから学校法人会計基準に基づく2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の財務計算書を報告いたします。

資金収支計算

資金収支計算書について (学校法人会計基準第6条の要旨)

当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入および支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入および支出のてん末を明らかにすることを目的としています。

収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	13,782,403	13,920,819	△ 138,416
手数料収入	594,968	593,929	1,039
寄付金収入	222,000	370,788	△ 148,788
補助金収入	1,798,409	1,751,647	46,762
資産売却収入	80,000	580,000	△ 500,000
付随事業・収益事業収入	301,175	405,092	△ 103,917
受取利息・配当金収入	260,533	257,911	2,622
雑収入	372,058	434,535	△ 62,477
前受金収入	2,499,554	2,479,393	20,161
その他の収入	635,042	1,884,458	△ 1,249,416
資金収入調整勘定	△ 2,466,313	△ 2,743,380	277,067
前年度繰越支払資金	6,344,564	7,785,481	-
収入の部合計	24,424,393	27,720,673	△ 3,296,280

■予算と決算の差異の主な理由

- ①収入の部
- 学生生徒等納付金収入(138,416千円増加)**
学部の学費納入者が積算人数より増加し、納付額が予算計上額を上回りました。
 - 寄付金収入(148,788千円増加)**
サポート募金への多額な寄付および研究奨励寄付金の増加により、予算計上額を上回りました。
 - 補助金収入(46,762千円減少)**
国庫補助金の私立大学等経常費補助金(一般補助)において、算定に係る各種(人数系・経費系)の増減率が悪化し、補助金収入が予算計上額を下回りました。
 - 資産売却収入(500,000千円増加)**
債券の早期償還により、売却収入が予算計上額を上回りました。
 - 付随事業・収益事業収入(103,917千円増加)**
受託研究等の増加により、研究収入が予算計上額を上回りました。
 - 雑収入(62,477千円増加)**
依願退職者の増加により、私学退職金社団および私立大学退職金財団の交付金収入が予算計上額を上回りました。
 - その他の収入(1,249,416千円増加)**
特別事業、債権運用の財源として取崩した減価償却引当特定資産が予算計上額を上回りました。また、前年度確定数値(前期末未収入金収入等)が予算に計上されていないため差異となりました。

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	8,464,235	8,505,299	△ 41,064
教育研究経費支出	4,736,990	4,792,420	△ 55,430
管理経費支出	927,758	856,562	71,196
借入金等利息支出	6,103	6,102	1
借入金等返済支出	138,920	138,920	0
施設関係支出	680,000	260,333	419,667
設備関係支出	1,322,119	958,938	363,181
資産運用支出	3,615,395	4,813,381	△ 1,197,986
その他の支出	206,406	407,167	△ 200,761
予備費	(59,515) 15,485		15,485
資金支出調整勘定	△ 601,097	△ 284,693	△ 316,404
翌年度繰越支払資金	4,912,079	7,266,244	△ 2,354,165
支出の部合計	24,424,393	27,720,673	△ 3,296,280

■予算と決算の差異の主な理由

- ②支出の部
- 人件費支出(41,064千円増加)**
依願退職者の増加により、退職金が予算計上額を上回りました。
 - 教育研究経費支出(55,430千円増加)**
研究費のうち外部資金(受託研究費、研究奨励寄付金)の執行実績が予算計上額を上回りました。
 - 管理経費支出(71,196千円減少)**
全般的な経費節減等により、予算計上額を下回りました。
 - 施設関係支出(419,667千円減少)**
特別事業予算の未使用および節減により、予算計上額を下回りました。
 - 設備関係支出(363,181千円減少)**
特別事業予算の節減および振替(消耗品支出等への振替)により、予算計上額を下回りました。
 - 資産運用支出(1,197,986千円増加)**
当年度減価償却額の確定および減価償却引当特定有価証券が早期償還されたことに伴う減価償却引当特定資産の繰入、サポート募金事業引当特定預金の繰入等により、予算計上額を上回りました。
 - その他の支出(200,761千円増加)**
前年度確定数値(前期末未払金支払支出)が予算に計上されていないため差異となりました。

事業活動収支計算

事業活動収支計算書について (学校法人会計基準第15条の要旨)

当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、①、②以外の活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した当該年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としています。

科目	予算	決算	差異
教育活動収支差額	△ 418,568	72,152	△ 490,720
教育活動外収支差額	259,766	255,575	4,191
経常収支差額	△ 158,802	327,727	△ 486,529
特別収支差額	196,800	27,407	169,393
予備費	22,915		22,915
基本金組入前 当年度収支差額	15,083	355,134	△ 340,051
基本金組入額合計	△ 1,217,407	0	△ 1,217,407
当年度収支差額	△ 1,202,324	355,134	△ 1,557,458
前年度繰越収支差額	△ 18,569,626	△ 15,636,569	△ 2,933,057
基本金取崩額	0	130,364	△ 130,364
翌年度繰越収支差額	△ 19,771,950	△ 15,151,071	△ 4,620,879

科目	予算	決算	差異
事業活動収入計	17,331,546	17,972,907	△ 641,361
事業活動支出計	17,316,463	17,617,773	△ 301,310

基本金の取崩額の内訳および2018年3月末基本金は、次のとおりです。

	基本金取崩額	2018年3月末 基本金
(第1号基本金)		150,801,516千円
本年度取得資産額 (自己資金による支払分)	1,219,271千円	
本年度取得資産額 (寄贈分)	69,381千円	
本年度取得資産に係る 未払金計上額	△ 15,526千円	
前年度取得資産に係る 未払金の本年度支払額	175,000千円	
過年度取得資産に係る 借入金返済金額	103,050千円	
本年度除却額	△ 1,681,540千円 △ 130,364千円	
(第2号基本金)		0千円
該当なし		
(第3号基本金)		5,500,000千円
該当なし		
(第4号基本金)		1,120,000千円
該当なし		

■予算と決算の差異の主な理由

- ①教育活動収支差額(490,720千円増加)**
【経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況】
事業活動収入では、手数料以外の収入科目が増加し、事業活動支出では、教育研究経費の増加分が人件費および管理経費の減少により軽減したため、教育活動収支差額は予算計上額を大幅に上回りました。
- ②教育活動外収支差額(4,191千円減少)**
【経常的な収支のうち、財務活動による収支状況】
事業活動収入の受取利息・配当金が金利低下の影響を受け減少したことにより、教育活動外収支差額は予算計上額を下回りました。
- ③経常収支差額(486,529千円増加)**
【経常的な収支バランス：①教育活動収支差額＋②教育活動外収支差額】
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加し、経常収支差額は予算計上額を上回りました。
- ④特別収支差額(169,393千円減少)**
【資産売却や処分等の臨時的な収支状況】
事業活動収入において、過年度に評価替えを行った債券の早期償還があり多額の資産売却差額を計上したが、事業活動支出において、それを上回る機器備品および図書資産処分差額を計上したため、特別収支差額は予算計上額を下回りました。
- ⑤基本金組入前当年度収支差額(340,051千円増加)**
【毎年度の収支バランス〔旧帰属収支差額〕】
主に経常的な本業の教育活動の収支である教育活動収支差額が増加したことにより、基本金組入前当年度収支差額は予算計上額を上回りました。
- ⑥基本金組入額合計(1,217,407千円減少)**
【学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額】
当年度の資産除却額が資産取得額を上回ったため、基本金組入額が無くなり、予算計上額全てが差異となりました。
- ⑦基本金取崩額(130,364千円増加)**
当年度の資産除却額が資産取得額を上回ったため、その差額を基本金取崩額として追加計上したことにより差異が生じました。

貸借対照表

貸借対照表について (学校法人会計基準第32条の要旨)

資産の部、負債の部および純資産の部の科目ごとに、当該会計年度末の額を前会計年度末の額と対比して、当該会計年度末の財産の状態を表すものです。

資産の部

科目	年度	2016末	2017末	増減
固定資産		142,244,250	142,898,987	654,737
有形固定資産		112,531,970	110,281,709	△ 2,250,261
特定資産		28,468,061	31,362,092	2,894,031
その他の固定資産		1,244,219	1,255,186	10,967
流動資産		8,019,937	7,460,371	△ 559,566
資産の部合計		150,264,187	150,359,358	95,171

負債および純資産の部

科目	年度	2016末	2017末	増減
負債の部		8,348,875	8,088,912	△ 259,963
固定負債		4,452,746	4,290,597	△ 162,149
流動負債		3,896,129	3,798,315	△ 97,814
純資産の部		141,915,312	142,270,446	355,134
基本金		157,551,881	157,421,517	△ 130,364
繰越収支差額		△ 15,636,569	△ 15,151,071	485,498
負債および純資産の部合計		150,264,187	150,359,358	95,171

※わかりやすくするため、決算報告書の貸借対照表と年度の並び順を変更して表示しています。

■貸借対照表各科目の主な増減理由

- ①資産の部**
 - 有形固定資産(2,250,261千円減少)**
当年度の減価償却資産の資産価値減少額(当期償却額)が該当資産の取得額を上回ったため、有形固定資産は減少しました。
 - 特定資産(2,894,031千円増加)**
減価償却資産の更新資金の積立てにより、特定資産は増加しました。
 - その他の固定資産(10,967千円増加)**
特別事業(システム更新事業)に係る長期前払金の計上により、その他の固定資産は増加しました。
 - 流動資産(559,566千円減少)**
特別事業費等の支払により、現金預金は減少しました。
- ②負債の部**
 - 固定負債(162,149千円減少)**
長期借入金のうち、1年未満に返済予定の金額を短期へ振替えたこと、および退職給与引当金の繰入調整を行ったことにより、固定負債は減少しました。
 - 流動負債(97,814千円減少)**
授業料等の前受金の減少に伴い、流動負債は減少しました。
- ③純資産の部**
 - (基本金)**
 - 第1号基本金(130,364千円減少)**
資産除却額が取得額を上回ったことにより、基本金を取崩しました。
 - (繰越収支差額)**
 - 翌年度繰越収支差額(485,498千円減少)**
教育活動収入の増加および基本金取崩により、翌年度繰越支出超過額は減少しました。

活動区分資金収支計算

活動区分資金収支計算書について (学校法人会計基準第14条の2要旨)

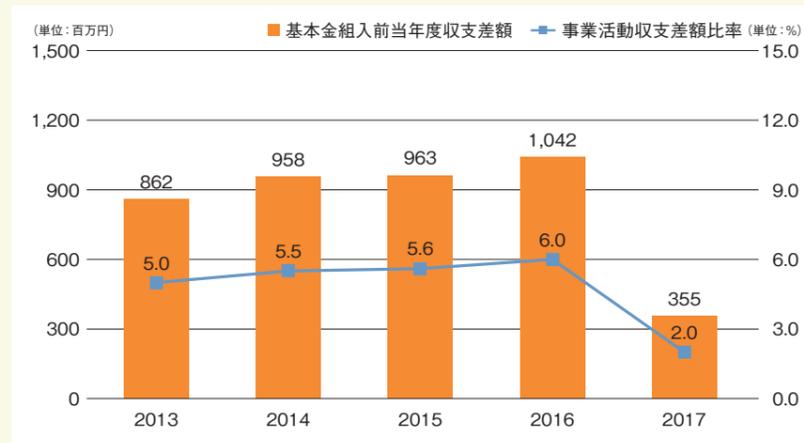
資金収支計算書を組み替えて、現預金の流れを活動区分ごとに把握することができます。

区分	金額	内容説明
教育活動資金収支差額	32.0億円	キャッシュベースでの本業の教育活動の収支状況を見ることができます。
施設整備等活動資金収支差額	△ 38.2億円	当年度に施設設備の購入等があったか、財源がどうだったかを見ることができます。
その他の活動資金収支差額	1.0億円	借入金の収支、資金運用の状況等、主に財務活動を見ることができます。
支払資金の増減額	△ 5.2億円	

経年比較

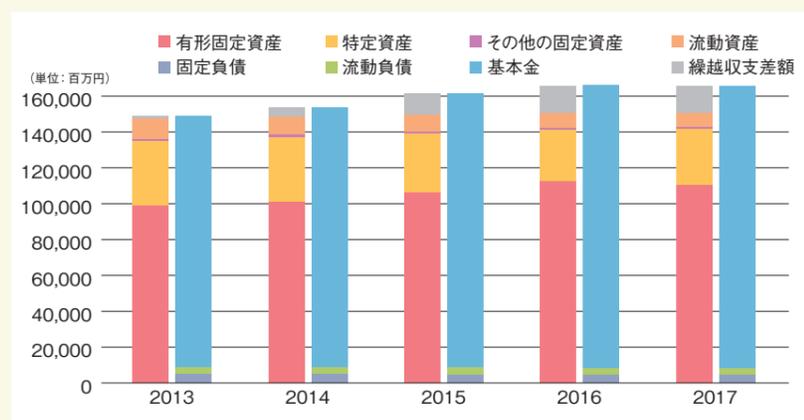
事業活動収支差額比率の推移

経営状況を表す財務指標である事業活動収支差額比率(基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入×100% : この値は高い値が良い)の2013年度から2017年度までの数値は次のとおりです。



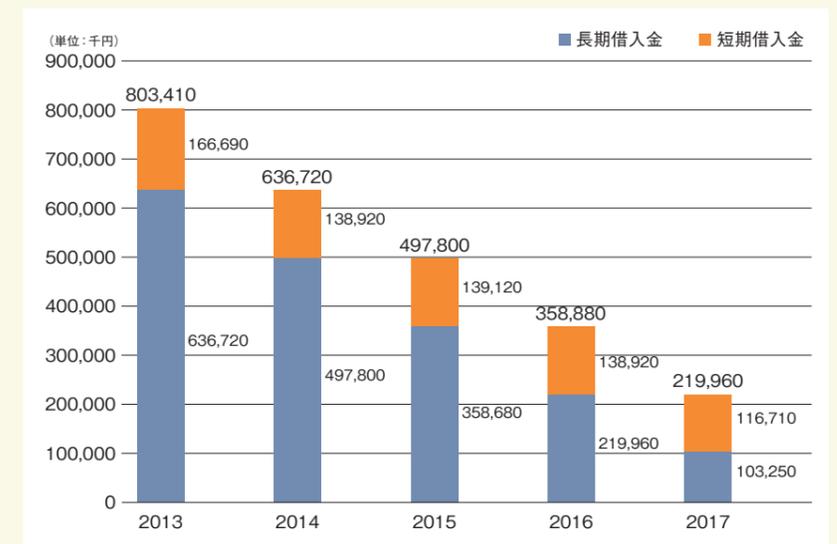
貸借対照表の推移

2013年度から2017年度までの数値は、次のとおりです。



借入金残高の推移

新たな借入れを行わず、計画に基づく返済を行った結果、借入金残高は減少しました。また、2017年度末の自己資金に対する借入金等の割合、いわゆる負債比率(総負債÷純資産: この値は低い値が良い)は、約5.7%となっています。右表のとおり順調に減少傾向にあり、2019年度までには、現在の借入金残高を完済する予定です。



※1 長期借入金は、返済期限が貸借対照表日後1年を超えて到来するものです。
 ※2 短期借入金は、返済期限が貸借対照表日後1年以内に到来するものです。

財務比率の推移

■ 理工他複数学部平均(「今日の私学財政」より)です。
 ■ 本学(東京電機大学)の数値です。

固定比率(%)…固定資産÷純資産
 (この比率は低い値が良い)



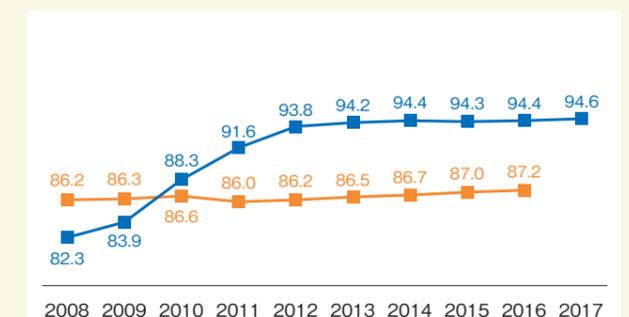
負債比率(%)…総負債÷純資産
 (この比率は低い値が良い)



流動比率(%)…流動資産÷流動負債
 (この比率は高い値が良い)



純資産構成比率(%)…純資産÷(総負債+純資産)
 (この比率は高い値が良い)



Information & DATA

▶ 大学院各研究科の取り組み

先端科学技術研究科

- 研究指導体制の充実と継続的な課程博士、論文博士の輩出に努めました(2017年度課程博士10名、論文博士4名)。また、修業年限内の学位授与促進のために、博士課程(後期)学生の国際会議参加費および旅費の補助を行いました。
- 2016年度認証評価受審時に指摘された「満期退学後、3年以内の学位請求を課程博士による学位請求としている取扱い」を廃止して、2019年度入学者より満期退学後の学位請求はすべて論文博士による学位請求としました。あわせて、2019年度入学者より修了所要単位を取得し、博士論文提出のために修了延期を願い出た者の修了延期期間の学費を75%減免することを決定しました。
- 先端科学技術研究科、工学研究科、未来科学研究科の研究成果発表会を2018年2月9日に合同開催しました。発表会は学外者および卒業生にも公開され、学部生を含め、計501名が参加しました。

工学研究科

- 大学院の進学率が30%を超過する専攻や在籍学生が多い研究室に対して、研究室スペースを確保するため、大学院フリーアドレス研究室の暫定運用を開始しました。(未来科学研究科共通)
- 先端科学技術研究科との整合性を保つため、選考基準の成果・実績表のポイント表の一部改正を2018年4月から施行することとしました。(未来科学研究科共通)
- 認証評価で指摘された研究科の早期修了条件を改めて詳細な条件を設定し、2018年度入学者から適用することとしました。

未来科学研究科

- 「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に選定された「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」を引き続き履修証明プログラムとして運用し、2017年度は24名が修了しました。なお、本プログラムは文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」に認定されています。
- 「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」の開講科目を2018年度から6科目から7科目に増やし、教育内容の充実を図ることを決定しました。
- 2016年度に引き続き、未来科学研究科所属の大学院生のために、国際会議で発表する際に必要となる技術英語の教育の充実を図るため、エクステンションプログラムを開講しました。

理工学研究科

- 理工学研究科および専攻毎に行うガイダンス、就職行事として行う就職ガイダンスなど、学部学生に対する理工学研究科の紹介を実施し、大学院への進学率向上に努めました。
- 理工学研究科学内推薦入試(A日程)に合格した学部4年次の16名を本学協定校の中原大学(台湾)に7月の約3週間派遣し、海外研修を実施しました(2018年度実施も決定)。また、事前準備として理工学研究科共通科目「科学英語」を先取り履修させることや「国際化プロジェクト」を2017年度に開講し、海外研修後の単位認定を実施しました。
- 埼玉県と県内にキャンパスを構える18大学が協力して、授業科目の一部を県内在住の55歳以上の方を対象にしたリカレント教育を実施するとともに、理工学研究科の授業科目の一部を一般に開放した「公開科目」を実施しました。

情報環境学研究科

- 修士論文・研究成果報告の審査の取扱いをより厳正に実施するため、審査における部門長の役割を定義したうえで公聴会・審査会を継続実施しました。
- 研究指導体制充実のため、副査の学生に対する研究指導面談を2016年度より実施し研究指導面談後、報告書を取りまとめ担当教員(部門長)・主査へ提出することを義務化しました。2017年度は、さらに主査による研究指導計画書の提出を実施し、研究指導の充実に努めました。
- 学生の意欲向上のため、本研究科主催の「アイデアコンテスト」を継続実施しました。また、学術貢献賞の授与などを継続して実施しました。

大学院専攻一覧

先端科学技術研究科 博士課程(後期): 数理学専攻 電気電子システム工学専攻 情報通信メディア工学専攻 機械システム工学専攻 建築・建設環境工学専攻 物質生命理工学専攻 先端技術創成専攻 情報学専攻

工学研究科 修士課程: 電気電子工学専攻/電気電子システムコース 電気電子工学専攻/電子光情報コース 物質工学専攻 機械工学専攻/機械工学コース 機械工学専攻/先端機械コース 情報通信工学専攻

未来科学研究科 修士課程: 建築学専攻 情報メディア学専攻 ロボット・メカトロニクス学専攻

理工学研究科 修士課程: 理学専攻 生命理工学専攻 情報学専攻 電子・機械工学専攻 建築・都市環境学専攻

情報環境学研究科 修士課程: 情報環境学専攻

▶ 各学部の取り組み

工学部

- 2017年4月に「電子システム工学科」「応用化学科」「先端機械工学科」の3学科を新設しました。
- 2017年度1年生より東京千住キャンパスではカリキュラム改編により、理工学の基礎知識、技術者としての倫理・素養を教育する新共通教育プログラムを開始しました。(工学部・未来科学部・システムデザイン工学部共通)
- PBLを含むアクティブラーニングの充実、全キャンパスの授業時間割の統一化を図るため、2018年度より100分14週授業へ移行しました。(理工学部・未来科学部・システムデザイン工学部共通)

工学部第二部

- 社会人学び直しのニーズに応えるため定員増をするとともに、社会経験を有する学生の特長を生かし、さらなるスキル・キャリアアップを図る教育課程として「社会人課程(実践知重点課程)」を新設しました。なお、同課程の柱となる科目を「実践知プログラム」とし、2018年度より履修証明プログラムとして開設しました。
- 社会人学生の修学環境の利便性を考慮した「メディアを利用して行う授業」の導入の一環として、社会人コースにおける放送大学との単位互換制度を導入しました。
- 大学進学に関心があり、働きながら就学する学習意欲のある新社会人(高校新卒者)を対象とした新たな入試制度として「はたらく学生入試」を実施しました。

未来科学部

- 2017年11月5日に開設10周年の記念式典を足立区、企業、卒業生を招待し、開催しました。
- 建築学科は、学びの分野を5分野で構成した体制で、入学者を受入れました。
- 文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」(アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化の複合テーマ)事業における反転授業等の各種事業の実施ならびに文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」におけるセキュリティ分野の重点拠点として情報セキュリティに特化した専門的な講義等、2つの特色ある教育プログラムを継続して実施しました。

システムデザイン工学部

- 2017年4月に学部として新たに設置されました。
- 「情報システム工学科」「デザイン工学科」の1学部2学科を設置しました。
- 学部開設2年目の募集活動を展開し、入学試験もほぼ当初目標のとおり学生を迎えることができました。

理工学部

- 2018年4月の学部改編を目指し、6学系16コースの学系構成策定、学系間や大学院と連携する新たな横型・縦型連携システムとしてオナーズプログラム(次世代技術者育成プログラム)の概要を策定しました。
- 理工学部基礎教育センターの執務室と学習サポートセンターの教員室を共有化し、教員同士の情報共有や連携強化を図るとともに、入学前教育やプレースメントテストの実施方法の検討のほか、各学系との定期的な打合せに基づき、2018年度から実施の理工学部改編に向けた「理工学部新共通教育プログラム」を策定しました。
- 2017年11月3日に、理工学部開設40周年記念式典・祝賀会等を開催し多くの卒業生や地域の方々(554名)に参加いただきました。

情報環境学部

- 2018年度以降の開講科目の基本方針を保証人へ周知しました。2018年2月～3月にかけて東京千住キャンパスへの移転を実施しました。
- 2017年度開設のシステムデザイン工学部の担当者が情報環境学部を兼務することとなる2018年度の情報環境学部の教育システムの調整をしました。
- 地域連携活動の中核となっていたNPO TIIAC(ティアック)は、千住移転等によるNPO法人解散(2017年度末)にともない、本年度を以って活動を終了することとなりました。これにともない、千葉での最後となる地域の小学生親子対象セミナー「でんだいキッズセミナー」を8月と12月に行いました。また、特別講演会「アンドロイドと未来社会」(講師:石黒浩教授)を秋葉祭(10月)と共催で実施しました。今後は2018年度以降の地域連携のあり方を印西市と協議していく方向です。

教育研究機関との連携

他大学との連携

本学、芝浦工業大学、東京都市大学、工学院大学で構成する東京理工系4大学では、各大学で開講する学部および大学院修士課程の授業を履修できる「単位互換制度」、いずれの大学院にも特別推薦により進学できる特別推薦入試制度などの連携を行っています。

他にも、首都大学院コンソーシアム、彩の国大学コンソーシアム、日本医科大学との連携、山形大学工学部、日本工業大学、公立はこだて未来大学、東京医科歯科大学等との学術連携協力のほか、足立区6大学(本学、放送大学、東京藝術大学、東京未来大学、帝京科学大学、文教大学)で連携し、学長会議を実施しました。また本学は、文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)」の第2期(学部生向け)セキュリティ分野において、東北大学をはじめとする11の大学のうちの1大学として採択され、情報セキュリティ分野における実践的人材を育成しています。11大学が連携して「Basic SecCap」というコースを共同運営し、講義および演習(PBLを含む)を相互に提供しています。本コース修了者には、コース修了認定証が授与されます。

研究機関との連携(連携大学院方式)

学外の研究機関と連携して、大学院生の研究指導を行う「連携大学院方式」を導入し、研究領域の多様化と研究内容の拡大を図り、大学院教育の活性化を目指しています。最新の設備と機器を備えた研究機関において、また客員教授として迎えた連携先研究者のもとで、研究指導を受けることができます。連携先および客員教員は今後も拡大を図る予定です。

《連携研究機関》

国立研究開発法人 理化学研究所／国立研究開発法人 産業技術総合研究所／一般財団法人 電力中央研究所／国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構／国立研究開発法人 海上技術安全研究所／国立研究開発法人 物質・材料研究機構／国立研究開発法人 情報通信研究機構／日本放送協会 放送技術研究所／独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所／日本電信電話株式会社(NTT物性科学基礎研究所)

海外協定校および交流のある海外大学(16の国と地域から28大学・1研究機関)

イギリス	ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ
アメリカ	コースタルカロライナ大学、コロラド大学ポールダー校、パデュー大学、マーシャル大学、フェアモント州立大学、アーカンソーテック大学
オーストラリア	シドニー大学
韓国	大邱大学校、ソウル科学技術大学校、全北大学校
中国	大連理工大学、同済大学、北京科技大学、新疆大学
台湾	中原大学
ドイツ	イルメナウ工科大学
フランス	フランス国立高等精密機械工学大学院大学(ENSM)
フィンランド	ラップランド応用科学大学
エストニア	タリン工科大学
インド	チャンディーガル大学
ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学
インドネシア	ヌサンタラ・マルチメディア大学
マレーシア	マラ工科大学、マレーシア工科大学
タイ	泰日工業大学、シンクロトロン光研究所、モンクット王工科大学トンプリー校
ブルネイ・ダムサラーム	ブルネイ工科大学



教育の取り組みの成果

学生の受賞・表彰

学会やコンクールでの発表などで、大学院生や学部生が様々な受賞や表彰を受けています。

博士 個人

小林 浩昭(先端研 博士3年)
INTERNATIONAL CONFERENCE ON RENEWABLE ENERGIES AND POWER QUALITY(ICREPQ'17)「Best Poster Awards」

修士 個人

齋藤 匠(工研 修士2年)
IEEE CEDA ALL Japan Joint Chapter Design Gaia 「Best Poster Award 2017」

上野 鷹幸(工研 修士2年)
第41回日本磁気学会 学術講演会「平成29年度学生講演賞(桜井講演賞)」

西之坊 拓弥(工研 修士2年)
7th Asia-Pacific Winter Conference on Plasma Spectrochemistry 「The RSC JAAAS Poster Prize」

平出 真也(工研 修士2年)
・放電学会 2017年度年次大会「優秀論文発表賞」
・電気設備学会 2017年(第35回)全国大会「発表奨励賞」

山本 健太(工研 修士2年)
情報処理学会 コンピュータセキュリティ研究会「CSS 2017 奨励賞」

陶山 聖(工研 修士2年)
第10回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2018)「学生プレゼンテーション賞」

山本 涼太郎(工研 修士2年)
第27回ライフサポート学会フロンティア講演会「奨励賞」

茂木 宏太(工研 修士2年)

2018年日本音響学会 春季研究発表会「学生優秀発表賞」

田中 寛也(工研 修士2年)

日本機械学会 交通・物流部門「優秀論文講演表彰」

亀田 佳希(工研 修士2年)

平成29年度電気学会 産業応用部門大会(函館大会)ヤングエンジニアポスターコンペティション「優秀論文発表賞」

野地 健太(工研 修士2年)

電気学会 平成29年度基礎・材料・共通部門大会「基礎・材料・共通部門表彰」

高橋 宏志(工研 修士2年)

SPIE.PHOTOMASK TECHNOLOGY + EUV LITHOGRAPHY 2017「Best Poster Award」

蝦名 航(工研 修士2年)

日本燃焼学会「論文賞」

上野 裕太(工研 修士2年)

平成29年度優秀実践技術者賞(学生の部)認定委員会「実践技術者賞(学生の部)」

片桐 嵩(工研 修士2年)

平成29年度優秀実践技術者賞(学生の部)認定委員会「実践技術者賞(学生の部)」

井戸 航洋(工研 修士1年)

・プラズマ分光分析研究会 2017筑波セミナー「Journal of Analytical Atomic Spectrometry Poster Prize」

・7th Asia-Pacific Winter Conference on Plasma Spectrochemistry 「Organo Corporation Student Presentation Award」

研究の取り組みの成果

教員等の受賞・表彰（2017年度受賞、所属・職位は受賞時） 現教員以外の受章・受賞・表彰も合わせて報告します。

叙勲等受章
古田 勝久 （現 本法人顧問（学事顧問）） 瑞宝中綬章（春）

学長、教員等
安田 浩 学長 The Consumer Technology Association「The Consumer Technology (CT) Hall of Fame」

吉田 亮 名誉教授 （工学部機械工学科） 日本燃焼学会「論文賞」
高村 淑彦 名誉教授 （元本学工学部教授） 平成29年安全功労者「内閣総理大臣表彰」
山本 欧 教授 （工学部電子システム工学科） ・ヒューマンインタフェースシンポジウム2017「優秀プレゼンテーション賞」
 ・第21回文化庁メディア芸術祭 アート部門「審査委員会推薦作品」
小松 聡 教授 （工学部電子システム工学科） IEEE International Test Conference「2016 JETTA-TTTC Best Paper Award」

藤田 聡 教授 （工学部機械工学科） 日本機械学会「会員功労者表彰」/「事業功労賞（出版物）」
佐藤 太一 教授 （工学部先端機械工学科） 日本機械学会「会員功労者表彰」
大澤 基明 教授 （工学部先端機械工学科） ・公益社団法人腐食防食学会「功績賞」
 ・日本ばね学会「特別功績賞」

堀内 敏行 教授 （工学部先端機械工学科） ・SPIE.PHOTOMASK TECHNOLOGY + EUV LITHOGRAPHY2017「Best Poster Award」
 ・Photomask Japan2017「Best Academic Poster Presentation」

山口 正二 教授 （理工学部情報システムデザイン学系） 日本カウンセリング学会「功労賞」
佐々木 良一 教授 （未来科学部情報メディア学科） 平成29年度情報通信月間「総務大臣表彰」
朝山 秀一 教授 （未来科学部建築学科） 日本知能情報フアジア学会「貢献賞」

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
文部科学省、日本学術振興会科学研究費補助金の採択状況 ^(件)					
新学術領域	0	0	0	0	1
基盤研究A	2	1	0	0	0
基盤研究B	8	5	5	6	8
基盤研究C	55	60	65	68	66
萌芽研究	8	7	9	11	10
若手研究A	1	1	1	1	1
若手研究B	15	18	18	18	24
特別研究員奨励費	3	2	3	2	0
学術図書	1	0	0	0	0
研究活動スタート支援	2	5	4	2	0
計	95	99	105	108	110

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
上記以外の公的補助金・助成金の採択状況 ^(件)					
特定領域研究	9	6	12	11	7

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
受託研究の受け入れ状況（継続を含む入金額） ^(注)					
件数(件)	45	52	56	59	74
受入額(円)	104,449,083	137,278,342	187,278,959	283,492,930	260,554,650

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
共同研究の状況（継続を含む） ^(注)					
件数(件)	57	74	88	102	110
受入額(円)	56,070,800	55,599,565	87,477,342	80,857,979	102,798,911

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
特許申請（保有件数） ^(注)					
出願件数(件)	25	25	18	29	32
特許取得件数(件)	17	10	7	16	8

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
研究奨励寄付金の受け入れ状況（継続を含む）					
件数(件)	60	73	83	73	83
受入契約額(円)	60,306,724	104,388,782	127,844,280	111,185,716	82,113,932

梅原 茉奈未 （工4年） 平成29年度優秀実践技術者賞（学生の部）認定委員会「実践技術者賞（学生の部）」
齋藤 玲亮 （工4年） 日本機械学会 関東学生会第57回学生員卒業研究発表講演会「Best Presentation Award」

楠田 浩樹 （理工4年） 第78回応用物理学会 秋季学術講演会「Poster Award」
鬼頭 大海 （理工4年） 電気学会 東京支部「電気学術奨励賞」
内田 夏綺 （理工4年） 電気学会 東京支部「電気学術女性活動奨励賞」
吉成 宏太 （理工4年） 第21回電気学会 東京支部埼玉支所研究発表会「優秀論文発表賞」

モハマド スルハキミ ビン アリアス （理工3年） 東松山市国際交流協会主催 第18回外国人日本語スピーチコンテスト「学生の部 最優秀賞」
堰澤 映 （未来4年） 第16回情報科学技術フォーラム（FIT2017）「FIT奨励賞」
橋本 和也 （未来4年） 電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ HCGシンポジウム2017「学生優秀インタラクティブ発表賞」

並木 亜樹奈 （未来4年） 日本人間工学会 関東支部第23回卒業研究発表会「表彰」
山崎 裕太郎 （未来4年） 情報処理学会 第80回全国大会「学生奨励賞」
須永 椋子 （未来4年） 映像表現・芸術科学フォーラム（Expressive Japan 2018）「CG-ARTS人材育成パートナー企業賞」
小野寺 恵 （未来4年） 第27回ライフサポート学会 フロンティア講演会「奨励賞」

堀 漢太 （未来4年） 第18回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会（SI2017）「SI2017優秀講演賞」
森田 幸輔 （情環4年） 電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ HCGシンポジウム2017「最優秀インタラクティブ発表賞」
千田 亮 （工ニ2年） 全日本製造業コマ大戦 第3回もの大場所「3位入賞」
涌井 勇輔 （工ニ4年） 平成29年度優秀実践技術者賞（学生の部）認定委員会「優秀実践技術者賞（学生の部）」

グループ
熊本 実桜 （2016未研修了）、 青木 隆太郎 （未研 修士2年）、 古賀 政好 （研究員） こども環境学会2017年大会「環境づくりのリゾームサイト（療育）の構築」（社会的活動の部門）「ポスター発表賞」
伊藤 海樹、鈴木 佑汰 （工研 修士2年） Photomask Japan 2017「Best Academic Poster Presentation」
長瀬 佳史郎、鈴木 元哉、野口 裕司、村木 一平 （未研 修士2年）、 森田 和希 （未研 修士1年） 第1回HAKKO熱の実験コンテスト「銀賞」

古川 亮、笠原 真紀、柳沼 啓斗 （未研 修士1年） 建築文化週間 学生グランプリ2017 銀茶会の茶席「優秀賞」
三輪田 真人 （先端研 博士2年）、 藤本 貴成、奈良本 光太、山内 一輝 （未研 修士1年） POLUSーボラスー学生 建築デザインコンペティション「佳作」
齋藤 拓海 （理工3年）、 小野寺 裕哉、佐藤 直、土橋 英児、丸山 祐 （理工2年） 第14回ACジャパン広告学生賞 新聞広告部門「奨励賞」
山上 翔 （未来1年）、 黒土 直斗 （シス工1年） U-22プログラミング・コンテスト2017「経済産業大臣賞<プロダクト>」 「BCN ITジュニア賞2018」

卒業生・研究生 他
スライマン アボレケモ （研究生） 東松山市国際交流協会主催 第18回外国人日本語スピーチコンテスト「学生の部 優秀賞」
関根 諒一 （2017工研修了） 電気学会 優秀論文発表A賞 平成29年電気学会 電力技術/電力系統技術/半導体電力変換合同研究会「ごみ発電ネットワークの故障時のリスク評価」

齋藤 幹 （工研 修士1年） 日本機械学会 情報・知能・精密機器部門「優秀講演奨励賞」
竹田 菜々美 （工研 修士1年） 日本化学会 電気化学ディビジョン 化学電池材料研究会 第40回講演会・夏の学校「優秀ポスター賞」

元木 達也 （工研 修士1年） 電子情報通信学会 東京支部学生会研究発表会「学生奨励賞」
加藤 優一 （理工研 修士2年） 電気学会 平成28年電子・情報・システム部門大会「奨励賞」
岩崎 雄己 （理工研 修士2年） ・第33回ライフサポート学会大会「LIFE2017 若手プレゼンテーション賞」
 ・第27回ライフサポート学会 フロンティア講演会「フロンティア講演会論文賞」

石川 卓磨 （理工研 修士2年） 日本航空宇宙学会 第61回宇宙科学技術連合講演会「学生セッション 最優秀賞」
櫻井 肇 （理工研 修士2年） 第21回電気学会 東京支部埼玉支所研究発表会「優秀論文発表賞」
渋谷 雅樹 （理工研 修士2年） 第27回ライフサポート学会 フロンティア講演会「奨励賞」
戸塚 穂高 （理工研 修士1年） 軽金属学会 133回秋季大会「優秀ポスター発表賞」

原 千明 （理工研 修士1年） ・平成29年度第14回地盤工学会 関東支部発表会GeoKanto2017「優秀発表者賞」
 ・2017年日本地震工学会 大会「優秀発表賞」
金井 勇介 （理工研 修士 1年） 平成29年度第14回地盤工学会 関東支部発表会GeoKanto2017「優秀発表者賞」

アルヤ アミラ （理工研 修士1年） IUMRS-ICAM 2017「Award for Encouragement of Research」
阿部 香織 （未研 修士 2年） 第20回画像の認識・理解シンポジウム（MIRU 2017）「MIRU学生優秀賞」
森山 柁平 （未研 修士2年） 第16回情報科学技術フォーラム（FIT2017）「FIT奨励賞」
小林 享生 （未研 修士2年） 第17回ビジュアル情報処理研究合宿（VIP2017）「VIP Award 優秀賞」

島川 貴裕 （未研 修士2年） デジタル・フォレンジック優秀若手研究者表彰「優秀賞」
堀江 慎 （未研 修士2年） 情報処理学会 第80回全国大会「学生奨励賞」
中澤 祐樹 （未研 修士1年） 情報処理学会 DICOMO2017「ヤングリサーチャー賞」
松本 征輝 （未研 修士1年） 電気学会 東京支部学生研究発表会「優秀発表賞」
飯岡 俊光 （未研 修士1年） 第33回ライフサポート学会大会「LIFE2017 若手プレゼンテーション賞」
佐藤 古都瑠 （未研 修士1年） 一般社団法人日本シミュレーション学会 学会賞（奨励賞）「Student Presentation Award」
廣木 梨紗子 （未研 修士1年） 一般社団法人日本シミュレーション学会 学会賞（奨励賞）「Student Presentation Award」
川村 健太 （未研 修士1年） 情報処理学会 第80回全国大会「学生奨励賞」
松田 海里 （情環研 修士2年） 情報処理学会 コンピュータと教育研究会142回研究発表会「学生奨励賞」

学部 個人
岩谷 直樹 （工4年） 化学工学会東北支部 福島化学工学懇話会主催 第8回福島地区OEセミナー「ポスター発表優秀賞」
佐々木 元気 （工4年） 電気学会 産業応用部門平成29年産業計測制御技術委員会「優秀論文発表賞」
高木 大地 （工4年） WordPress用プラグイン MTS Simple Booking C のクロスサイトスクリプティン グ脆弱性を発見「脆弱性番号: CVE-2018-0513、JVN#99312352」
田中 正樹 （工4年） International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing 2018(NCSP'18)「Student Paper Award」
高瀬 裕矢 （工4年） 電気学会 東京支部学生研究発表会「優秀発表賞」

[[]* 所属・学年は受賞当時。
[]]* 先端研=先端科学技術研究科、工研=工学研究科、理工研=理工学研究科、情環研=情報環境学研究科、未研=未来科学研究科、工=工学部、理工=理工学部、情環=情報環境学部、未来=未来科学部、シスエ=システムデザイン工学部、工ニ=工学部第二部（夜間）

就職実績

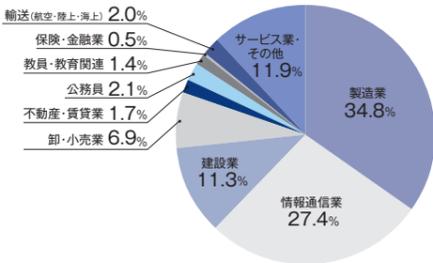
●就職内定率

99.6%

1,619名希望 1,612名決定 2018年3月卒業生実績

2018年3月卒業、修了生の就職内定実績。民間企業への就職希望者1,619名に対して、1,612名が内定を獲得しました。

●産業別就職割合



●主要内定実績企業一覧 (2018年3月卒業生実績)

1 三菱電機	15	6 富士電機	8
2 東日本旅客鉄道	12	7 ケーヒン	8
3 日本電気(NEC)	11	8 関電工	6
4 スズキ	11	9 パイオニア	6
5 大和ハウス工業	10	10 NECフィールディング	6
11 DTS	6	11 東急コミュニティー	6
12 アルファシステムズ	6	12 積水ハウス	5
13 クレスコ	6	13 日本精機	5
14 ラック	6	14 不二ラテックス	5
15 ジヤトコ	6	15 凸版印刷	5
16 システナ	6	16 東京地下鉄(東京メトロ)	5
17 東海旅客鉄道(JR東海)	20	17 日本ケミコン	5
18 沖電気工業	19	18 富士通	5
19 東京電力	18	19 マクニカ	5
20 富士通	18	20 NECプラットフォームズ	5
21 本田技研工業	17	21 トヨタ自動車	5
22 日立製作所	22	22 ミネベアミツミ	5
23 東芝機械	20	23 沖電気工業	5
24 日立オートモティブシステムズ	14		
25 エヌ・ティ・ティ・データ	13		
26 キヤノンメディカルシステム	12		
27 京三製作所	12		
28 ミツトヨ	12		

●過去5年間の内定企業実績一覧 (2014年3月~2018年3月卒業生実績)

1 三菱電機	77	6 関電工	29
2 東日本旅客鉄道	47	7 東急コミュニティー	28
3 日本電気(NEC)	42	8 富士電機	28
4 NECフィールディング	32	9 大成建設	27
5 凸版印刷	30	10 パイオニア	26
11 大和ハウス工業	25	11 東海旅客鉄道	20
12 スズキ	25	12 沖電気工業	19
13 トヨタ自動車	25	13 東京電力	18
14 DTS	24	14 富士通	18
15 日鉄住金テックスエンジニア	22	15 本田技研工業	17
16 日立製作所	22	16 ミネベアミツミ	16
17 アズビル	15		
18 日立オートモティブシステムズ	14		
19 エヌ・ティ・ティ・データ	13		
20 キヤノンメディカルシステム	12		
21 京三製作所	12		
22 ミツトヨ	12		

●電機会 (2018年3月現在)

卒業生が企業等でつづっている支援組織

1 教職校友会	1,278	6 錦央電機会	182
2 東京電機大学技術士会	373	7 沖電気電機会	168
3 民間放送校友会	290	8 東管支部	165
4 三菱電機会	278	9 鹿島建設電機会	120
5 関電工電機会	189	10 大成建設電機会	103

●求人社数

14,881社 (前年比6.2%増)

本学の学生一人あたりの求人件数は約9社。(全国平均は1.76社:リクルートワークス研究所調べ)

●希望企業への内定獲得率

92.6%

2018年3月卒業生アンケートで就職内定先企業が、希望順位の第3位までの割合。第1位と回答した学生も63.1%にのびります。

●就職先企業の満足度

96.3%

2018年3月卒業生アンケートで就職内定先企業を「大変満足」「満足」と答えた学生の割合。

●学内企業説明会参加企業数 (2017年3月~2018年3月までに開催)

585社

就職活動の時期に電大生のために会社説明会を開催する企業数。

●卒業生による仕事研究セミナー参加企業数 [キャリア教育行事]

(2018年2月10日開催実績)

259社

卒業生が活躍する企業259社が1日に集まり、卒業生が親身になって相談のつてくれます。

●キャリア支援・就職支援講座 (2017年度)

152回

学部1年生から参加できる講座など、3キャンパスで毎週1つ以上の講座を開講しています。

IHI、アズビル、アスモ、アドバンテスト、アルパイン、いすゞ自動車、インターネットニシアティブ、SCSK、NTTアドバンステクノロジ、エヌ・ティ・ティ・データ、NTTテクノクロス、荏原製作所、オークマ、大林組、大森機械工業、沖電気工業、オリンパス、鹿島建設、カプコン、亀田製菓、キッツ、キャノンメディカルシステム、京三製作所、京セラ、協和エクシオ、グローリー、KYB、小松製作所、GSユアサ、敷島製パン、シチズンマシナリー、SUBARU、ソディック、大成建設、大日本印刷、高砂熱学工業、TDK、帝人、デンソー、東海旅客鉄道、東京エレクトロン、東京急行電鉄、東京精密、東芝機械、東芝テック、西日本旅客鉄道、日産自動車、日鉄住金テックスエンジニア、日本コムシス、日本信号、日本精工、日本無線、任天堂、東日本電信電話、日立オートモティブシステムズ、日立製作所、日立ハイテクノロジーズ、フクダ電子、富士通エフサス、本田技研工業、前田建設工業、ミツトヨ、ミツバ、ミネベアミツミ、明電舎、ヤフー、ヤマザキマザック、ヤマハ発動機、ヤンマー、雪印メグミルク、横河電機、ルネサスエレクトロニクス、ローム

IHI、アルパイン、アルファシステムズ、アルプス電気、いすゞ自動車、インターネットニシアティブ、セイコーエプソン、NECプラットフォームズ、NSD、NTTアドバンステクノロジ、NTTテクノクロス、荏原製作所、大林組、大森機械工業、岡村製作所、オリンパス、鹿島建設、キッツ、キャノン、京セラ、クレスコ、KDDI、ケーヒン、KYB、コア、山九、サンケン電気、システナ、シチズンマシナリー、清水建設、ジャステック、ジヤトコ、ショーワ、SUBARU、積水ハウス、ソディック、大日本印刷、高砂熱学工業、竹中工務店、TDK、テイ・エステック、東京エレクトロン、東京急行電鉄、東京精密、東京地下鉄(東京メトロ)、東芝機械、東芝テック、日産自動車、日本ケミコン、日本光電工業、日本コムシス、日本精工、日本電産、日本電設工業、日本電波工業、日本発条、日本無線、東日本電信電話(NTT東日本)、日立アプライアンス、日立システムズ、日立起LSIシステムズ、富士通ゼネラル、ポッシュ、前田建設工業、マクニカ、三井情報、三井造船、ミツバ、三菱電機インフォメーションシステムズ、武蔵野、明電舎、メタウォーター、ヤフー、ヤマザキマザック、ヤンマー、横河電機、ラック、理想科学工業

11 明電舎電機会	98	15 竹中電機会	57
12 京三電機会	74	17 日本電波工業電機会	47
13 東光電気工事電機会	65	18 東管神奈川電機会	43
14 商工懇話会	59	19 特許電機会	38
15 長谷工電機会	57	20 アズビル電機会	35

※他に多くの電機会があります。

卒業生の活躍

■卒業生が現役トップの上場企業 (社長・会長クラス)

※上場企業の代表権のあるトップは11名(全国38位)、役員は65名(全国59位)。

会社名	資本金	従業員(人)	事業内容
亀田製菓(株)	19億円	3,152	菓子の製造販売。国内米菓市場の約30%を占める。米国、中国など世界に米菓を広げている。
関電工	102億円	9,244	電気・通信・空調・プラントなど電力の安定供給を守る、幅広い分野の設備工事を展開する総合設備企業。
株式会社ハルテック	66億円	544	鉄骨・橋梁の大手。東京スカイツリーや東京湾アクアライン、超高層ビルなどに実績。
株式会社システム情報	3.02億円	469	独立系。高取得率の国際PMPとCMMILレベル5をベースのプロジェクト管理力に強み。
システムズ・デザイン(株)	3.33億円	571	SIとデータ入力、会計ソフトのプレス発送が柱。独立系会計ソフトのPCA創業者が筆頭株主。
シンデン・ハイテックス(株)	9.93億円	136	液晶や半導体などの電子部品販売を主軸とする専門商社。サプライチェーン・マネジメントが強み。
株式会社セコニックホールディングス	16億円	485	露出計ブランドとして有名。事務機器や露出計、監視カメラなど、海外にも子会社展開。
株式会社ソディック	207億円	3,415	放電加工機で世界2位、国内首位。独自技術に強み。
株式会社大気社	64億円	4,702	空調工事業界大手。自動車塗装設備工事で国内首位、世界で2位。東南アジアなど海外展開も。
帝国通信工業(株)	34億円	2,255	可変抵抗器の老舗だがデジタル家電向けの前面操作ブロックが収益柱。アジア市場を開拓中。
テクノホライゾン・ホールディングス(株)	25億円	901	タイテックと買収したエルモ社の共同持株会社。電子・光学機器の2本柱、書画カメラが看板。
東海旅客鉄道(株)	1,120億円	28,593	鉄道事業、超電導リニアによる中央新幹線および海外事業展開、駅立地を活かした関連事業。
株式会社ドウシシャ	49億円	1,652	ブランド品等を量販店中心に卸売り、PB商品開発も積極推進、小売り支援等サービスも。
東洋電機(株)	10億円	496	電子制御・配電機器メーカー。エレベーター用センサーでは首位級。耐電圧変圧器も強み。
株式会社トプコン	166億円	4,497	測量やGPS関連が軸。眼底カメラなど眼科用機器は世界有数。
富士ソフト(株)	262億円	12,517	独立系大手ソフト開発。家電や自動車向けの組み込み系ソフトに強み。
不二ラテックス(株)	6.43億円	290	ゴム製品および産業機械向け緩衝器等の製造・販売。
株式会社マイスターエンジニアリング	9.81億円	1,819	半導体製造装置などメカトロメンテからビル等の施設メンテと管理に軸足。環境分野を開拓。
マクニカ・富士エレホールディングス(株)	100億円	2,711	技術力誇る半導体商社。主取引先は大手電機メーカーで通信設備向けICに強み。
山加電業(株)	9.89億円	134	送電線・内線工事が主体だが、通信向けも育成。電力は東北電力が主要発電先。建物管理事業も。

■卒業生が役員を務めている上場企業

(株)アイ・オー・データ機器/(株)アドバンテスト/(株)アンリツ/(株)池上通信機/(株)NKKスイッチズ/(株)オーネックス/(株)カシオ計算機/(株)亀田製菓/(株)川崎設備工業/(株)関電工/(株)クレスコ/(株)コーエーテックモホールディングス/(株)駒井ハルテック/(株)三協フロンティア/(株)システム情報/システムズ・デザイン/(株)ジャステック/新光商事/(株)シンデン・ハイテックス/(株)スタンレー電気/(株)住友電設/(株)セコニックホールディングス/(株)ソディック/(株)大気社/(株)高見沢サイバネティクス/(株)タチエス/(株)チノー/(株)DTS/帝国通信工業/(株)テクノホライゾン・ホールディングス/(株)電気興業/(株)東海旅客鉄道/(株)東京エネシス/(株)ドウシシャ/東洋電機/(株)トプコン/ナカイレール/(株)中野冷機/(株)西川計測/(株)日本金属/(株)能美防災/(株)ハーモニックドライブ・システムズ/ピーシー・エー/(株)福島銀行/富士ソフト/(株)富士ソフトサービスビューロ/(株)不二ラテックス/(株)古林紙工/(株)豊和工業/(株)ホーチキ/(株)ホクサンホールディングス/(株)マイスターエンジニアリング/マクニカ・富士エレホールディングス/(株)マブチモーター/(株)ミサワホーム/(株)ミサワホーム中国/(株)三井金属エンジニアリング/(株)山加電業/(株)油研工業/(株)物理経/理研計器/(株)リョービ/(株)ワイエイシイホールディングス(株)

出典:「東洋経済別冊 役員四季報2018年度版」

■卒業生の叙勲等受章者 (2017年)

「旭日双光章(春)」 薄衣敏則 殿	神奈川県メッキ工業組合理事長	「旭日双光章(秋)」 櫻井清範 殿	元 東京都板橋区議会議員
「瑞宝双光章(春)」 柏谷昭彦 殿	元 公立中学校校長	「瑞宝双光章(秋)」 佐藤義雄 殿	元 (公立)静岡県立静岡工業高等学校校長
「瑞宝中綬章(秋)」 大野悠二 殿	元 防衛省技術研究本部航空装備研究所長	「瑞宝単光章(秋)」 新行内一 殿	新橋電業社代表

■著名な卒業生など

敬称略。ほかに多くの著名な卒業生がいます。

横河 一郎	横河電機(株)の創業者のひとり。大正時代に欧米を視察し、電気計測器の国産化に成功。同社製の実演装置等を保管。同社は工業計器首位。制御機器と計測器が2本柱。
内田 鐵衛	(株)コロナの創業者。日本初の軽油を燃料とした「加圧式液体燃料コンロ」の開発に成功し実用化。同社は石油暖房機器、空調、温水機器が主力。
高橋 勲次郎	日本電子(株)創業者で電子顕微鏡の実用化に成功。同社は世界最高の分解能を誇る電子顕微鏡で、世界シェアが高い。
福田 孝	フクダ電子(株)の創業者。国産心電計の開発に成功。同社は医用電子機器メーカーとして循環器系に強く、心電計でトップ。千葉ニュータウンキャンパス福田記念国際交流センターを寄贈。
榎尾 俊雄	カシオ計算機(株)創業の榎尾4兄弟のひとり。世界初の小型純電気式計算機「14-A」、電卓、時計、電子楽器など発明品は多数。同社は電波時計、電子辞書で高シェア。東京千住キャンパスに同氏を顕彰したカシオホールがある。(※本学名誉博士)
手島 透	自動車の液相式高輝度赤色LEDを開発・実用化し、LED産業発展の基礎を築く。スタンレー電気(株)技術研究所長、代表取締役を歴任。紫綬褒章受章。(※本学名誉博士)
ズハール	インドネシア共和国国家イノベーション委員会会長、アルアズハルインドネシア大学学長を経て、インドネシア政府要職を歴任。旭日重光章受章。(※本学名誉博士)
新田 次郎	直木賞作家、気象学者。気象庁に勤務しながら本学を卒業。「強力伝」で直木賞。自らの体験に根ざした「富士山頂」や「聖職の碑」などの山岳小説で有名。紫綬褒章受章。
熊谷 達也	直木賞作家。東北や北海道の民俗、文化、風土に根ざした小説「邂逅の森」で、山本周五郎賞と直木賞をダブル受賞。「漂泊の牙」で新田次郎文学賞。
円谷 英二	特殊映画監督。元円谷プロダクション社長。ウルトラマンやゴジラなど、昭和の特殊撮影技術の第一人者で、特撮の神様と称される。(電機学校在籍)
飯島 勲	元小泉純一郎内閣総理大臣秘書官。衆議院議員公設秘書、各大臣の秘書官、内閣官房参与等を歴任。
田村 信一	元日本テレビ放送網(株)取締役専務執行役員。テレビ放送デジタル化を推進。第62回前島密賞。

社会に貢献する東京電機大学

●丹羽保次郎記念論文賞

初代学長で日本の十大発明家に数えられる故丹羽保次郎博士の電気通信技術に対する功績を記念し、大学院生等を対象に1977(昭和52)年に設立されました。2017年度は14件の推薦応募があり、審査の結果、次の3名の方が受賞されました。(所属等は受賞時)

石川 直樹氏 (広島市立大学大学院情報科学研究科助教)
受賞対象論文「Rectangular Differential Spatial Modulation for Open-Loop Noncoherent Massive-MIMODownlink」

小貫 真希氏 (東京農工大学大学院生物システム応用科学府生物機能システム科学専攻 博士後期課程在学中)
受賞対象論文「Graph Signal Denoising via Trilateral Filter on Graph Spectral Domain」

北原 大地氏 (立命館大学情報理工学部画像・音メディアコース助教)
受賞対象論文「Algebraic Phase Unwrapping Based on Two-Dimensional Spline Smoothing Over Triangles」

学校法人東京電機大学学術振興基金 各賞受賞者

この基金は、本学園の研究機関および研究者等を援助するために設け、特色ある新分野を拓く学術研究および学術研究の国際交流等を奨励し、学術の向上発展に寄与することを目的としています。(2017年度の受賞者、所属等は受賞時)

教育賞 代表者： **柿崎 淑郎 助教** (未来科学部情報メディア学科)
標 題：ソフトウェア開発プロセスの実践的学修
代表者： **宮保 憲治 教授・小川 猛志 教授** (情報環境学専攻)
標 題：産業界に貢献できる技術者教育に相応しい教育指導の実践

教育奨励賞 代表者： **山田 あすか 准教授** (未来科学研究科建築学専攻)
標 題：医療・福祉施設における「環境づくり」の実践

発 明 賞 【教員・嘱託部門】 **藤田 聡 教授・小見 俊夫 講師** (発明時) (工学部機械工学科)
発明の名称「沈殿池におけるスロッシング抑制構造」
【学生部門】 **山岸 航平 氏** (工学研究科情報通信工学専攻 修士課程2年)
発明の名称「群ロボットおよび群ロボットの集団移動制御方法」

論 文 賞 **足立 直也 准教授** (理工学部理学系)
論文名「Fluorescence turn-on chemical sensor based on water-soluble conjugated polymer/single-walled carbon nanotube composite」
宗政 由桐 助教 (理工学部建築・都市環境学系)
論文名「移動・立地コストを考慮した容量制約付き職住分布の均衡配置」

マスコミで注目された教職員

佐々木 良一 未来科学部 情報メディア学科教授：サイバー攻撃などに対する情報セキュリティの第一人者として解説。
安田 進 理工学部 理工学科 建築・都市環境学系教授：熊本地震や阿蘇陥没、液状化問題についてテレビや新聞でコメント。
寿楽 浩太 工学部 人間科学系准教授：原子力に関わる問題に詳しい専門家として、放射性廃棄物最終処分問題の今後の課題等についてテレビ・新聞・雑誌で解説やコメント。
松浦 昭洋 理工学部 理工学科 情報システムデザイン学系准教授：発明特許技術「組立構造体」を採用して製品開発した新形状ブロック玩具「ルミノイド®」が、新聞各紙で紹介。東京おもちゃショー2017出演。

本学で開催された著名人の講演会 [カッコ内は開催日と主催部署等]

津田 雄一氏 (JAXA宇宙科学研究所「はやぶさ2」プロジェクトマネージャ、宇宙飛行工学研究系准教授)「日本の太陽系探査：イカロス・はやぶさ2・そして未来へ」[4/22:校友会]
中島 秀之氏 (東京大学 特任教授)「AIと人類の明るい未来～AIを最大限活用するために」[6/1:経営同友会]
城 俊雄氏 (朝日新聞社 国際担当補佐/前・国際発信部長)「英文ニュースで読み解く世界の話：ジャーナリズムの現場から」[9/28:未来科学部ロボット・メカトロニクス学科]
石黒 浩氏 (大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授(特別教授))「アンドロイドと未来社会」[10/8:情報環境学部]
青木 豊彦氏 (株式会社アオキ取締役会長、東大阪市モノづくり親善大使、大阪市立大学学長特別顧問)「宇宙が拓く化学技術の未来」[11/3:理工学部]
妹尾 堅一郎氏 (特定非営利活動法人産学連携推進機構理事長)「産業生態系の大変革と次世代のビジネスモデル」[11/13:経営同友会]
金森 洋史氏 (清水建設株式会社 技術研究所 宇宙・ロボットグループ)「宇宙と建設」[11/24:未来科学部建築学科]

東京電機大学出版局の活動紹介

教科書、技術書、学術書、啓発書や文部科学省教科書など多くの出版物を刊行し、社会から高い評価を得ています。2017年度は『詳解 電力系統工学』『社会シミュレーション』『学生のためのPython』『大学数学基礎力養成 微分の教科書』『Inventorによる3D CAD入門』など31点の新刊書籍、重版51点を刊行しました。

●教育・研究の公開

教育の公開や社会貢献などを行っています。(カッコ内は主催部署等)

講演会、公開講座等から

「国際化サイバーセキュリティ学特別コース」(CySec事務局)
「第1回 医療機器国際展開技術者育成講座」(産官学交流センター)
「第41回 ME講座」(産官学交流センター)
「東京電機大学 数学講演会」(工学部 未来科学部・システムデザイン工学部数学系列)
その他、各キャンパスで子ども向け各種講座を開催しました。

「FD/SDセミナー」(教育改善推進室)
「第20回 オーケストラを楽しもう!」(理工学部)
「サイバーセキュリティシンポジウム2018 in TDU」(研究推進社会連携センター)
「大学教育再生加速プログラム(AP)フォーラム」(APフォーラム事務局)



●産官学連携に関する交流会

東京電機大学経営同友会
大学ならびに校友会の協力・連携の下に産学協同のネットワークとして2001年に発足。現在の正会員数は100名を超えています。

TDU産学交流会(埼玉鳩山キャンパス)
埼玉県内の企業と理工学部との交流会として1990年に発足。現在の会員は24社です。

●地域連携活動に関する施設

創業支援施設「かけはし」
東京千住アネックスにて、足立区から補助を受けて、創業支援施設「かけはし」を2011年12月から運営しています。インキュベーションオフィス14室とシェアードオフィス12ブースがあります。旧足立区立の中学校を利活用した事業として注目されています。

学生活躍

学生活躍・団体イベント(所属等は受賞当時)

陸上競技部が関東学生理工陸上競技大会にて入賞
第49回関東学生理工陸上競技大会において、坂巻佑馬さん(情報通信工学科1年)が三段跳総合4位、鈴木裕太さん(機械工学科1年)が走幅跳総合5位、中川聡さん(電子・機械工学系2年)が400mハードル総合8位、宮澤茉莉さん(ロボット・メカトロニクス学科2年)が走幅跳総合8位と入賞を果たしました。

硬式野球部が東京新大学野球連盟四部秋季リーグで優勝
東京新大学野球連盟四部秋季リーグ最終戦において、本学硬式野球部がリーグ優勝を果たしました。また、12月に東京農工大学との入替戦に挑んだ結果勝利し、三部リーグへの昇格が決まりました。

サイクリング部 榛名山ヒルクライムにて団体1位を獲得
情報環境学部サイクリング部が、団体として初エントリーした榛名山ヒルクライムにて団体1位を獲得しました。また、この結果が評価され、当年度の大学同窓会による奨励賞を受賞しました。

フォーミュラSAEプロジェクトが「Formula SAE Australia2017」に出場
埼玉鳩山キャンパスのフォーミュラSAEプロジェクトが12/7~10にオーストラリア・メルボルン郊外に位置するサーキット、Calder Park Racewayで開催された「Formula SAE Australia2017」に出場しました。ハイレベルな戦いが展開されるなか、総合評価で10位、コストイベントでは3年ぶり2度目の優勝を成し遂げました。

ヒューマノイド研究部が各大会で大活躍
「ROBOT JAPAN 14th」二足歩行ロボット格闘技部門RJフライ級にて、清水健一さん(電子・機械工学系2年)が3位入賞、「ROBOT GENERATION 12 in 明治大学」にて千葉海都さん(電子・機械工学系2年)が1位、小田耀仁さん(電子・機械工学系3年)が2位と上位を独占、「第16回ROBO-ONE Light」では高橋 瞭さん(電子・機械工学系3年)がデザイン賞と、各大会にて活躍しました。

アマチュア無線部が各コンテストにて好成績
5月に開催された日本アマチュア無線連盟東京支部主催「東京コンテスト」において、和田将史さん(電子システム工学科3年)、西岡伊吹さん(電子システム工学科2年)の両名が3位に入賞しました。4月に開催された日本4大コンテストの1つ「第59回ALL JA コンテスト」においても、マルチオパオールバンドM部門において4位入賞と好成績を収めました。

東京千住キャンパス放送委員会作品が最優秀賞、主演女優賞を受賞
OMEQ主催「春のモニター会」において、東京千住キャンパス放送委員会の映像作品が最優秀賞、主演女優賞を受賞しました。工夫に富んだ撮影や編集を行い、ストーリー性・カメラワーク・編集技術が高く評価されました。

団体活動やイベントへの参加

第40回記念大会 日本スリーデーマーチ
本イベントは参加者10万人を超える日本最大のウォーキングイベントで、2017年度は第40回記念大会にあたり、文化祭実行委員会を中心に毎年運営協力をしている埼玉鳩山キャンパスが功労表彰を受けました。また、オリジナルフレーム切手も発売され、10種類の切手の1つに埼玉鳩山キャンパスのイチョウ並木の写真が採用されました。(11/3~5)

東京電機大学×J:COM足立 共同企画「小学生ものづくり教室」を開催
(株)J:COM足立からの要請を受け、ものづくりセンターで関係各部署が協力し、「小学生ものづくり教室」を開講しました。お昼には学食体験を行い、小学生達は終始楽しい時間を過ごしました。(8/17)

タートルマラソン国際大会in足立
タートルマラソン国際大会in足立では、ボランティアサークル「らいふ」が参加者の誘導、障がい者の参加者への記念品をお渡しする等、ボランティア活動を行いました。学生達は大会終了後に道端などのゴミ拾いも行うなど、マラソン参加者から感謝の言葉をたくさんいただきました。(10/15)

「SECCON 2017 決勝大会」を開催
東京千住キャンパスで開催されたセキュリティコンテスト「SECCON 2017 決勝大会」の様子が、各種メディアで紹介されました。世界102カ国、累計4,347人から勝ち進んだ15チームが一堂に会し、実力を競い合いました。(2/17~19)

電大ガールズが電子工作教室を開催
本学女子学生による団体、電大ガールズが、子ども達に科学や技術への関心を高めってもらうためのイベント、「電大ガールズpresents ヒカッとキラッと電子工作」を本年も開催。多くの子ども達が参加しました。(8/2)

東京電機大学後援会(在校生父母の会)

在学生の保証人の方々などを会員とする組織で、保証人の方々とは大学との意思疎通を図る役割を担い、会員・学生のために様々な事業を展開しています。会誌『学苑』の発行のほか、各キャンパスおよび全国10会場で父母懇談会を開催、「父母のための東京電機大学ガイド」の発行、メールマガジンの配信等を行っています。また、学生のクラブ、学園祭、体育祭への補助を行っています。2017年度の父母懇談会には1,575組、2,331名(キャンパス会場1,305組1,911名、地方会場270組420名)のご父母の皆さまにご参加いただきました。

<small>(教職員が役員企業。2018年4月現在)</small>			
会社名	概要	会社名	概要
ネプラス(株)	設立年月：2000(平成12)年5月 業 務 概 要：高速高精度3次元位置測定システム等の開発、販売等 本学関係者：代表取締役：新澤 靖 教授(システムデザイン工学部 情報システム工学科)	(株)映創初演	設立年月：2009(平成21)年9月 業 務 概 要：情報処理・画像処理に関するソフトウェアとハードウェアの研究・開発および販売 本学関係者：代表取締役：安田 浩 教授

中学校・高等学校の取り組み

●東京電機大学中学校・高等学校の校訓

人間らしく生きる

τό ἀνθρωπίνως ξὴν μανθάνομεν.
～人間らしく生きることを学ぶ～

中学校の教育方針 生徒と教員の信頼関係を大切にしながら、自主性や社会性、学習への積極的な姿勢を育み、6年後の大きな飛躍へと導く。
中学1年：生活・学習両面の自主性を高める
中学2年：自立した学習法を習慣化する
中学3年：将来の目標を定めるきっかけをつかむ

●志願者数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
中学校	1,155	1,096	988	913	960
高等学校	381	393	335	458	472
合計	1,536	1,489	1,323	1,371	1,432

●進路（高等学校 教育の取り組みの成果）

ほぼ全員が進学希望。2018年度卒業生現役進学率：80.0％ 東京電機大学への2018年度入試 卒業生内部推薦：9.4％

2018年度入試 主な大学入試合格状況（現役生の延べ人数。2018年4月5日現在）

国公立大学 東京工業大学1名、東京農工大学8名、電気通信大学4名、首都大学東京5名、千葉大学1名、埼玉県立大学1名、山形大学1名、前橋工科大学1名、山口大学1名、防衛大学校2名

私立大学 早稲田大学8名、慶應義塾大学3名、上智大学3名、東京理科大学22名、学習院大学3名、明治大学16名、青山学院大学2名、立教大学8名、中央大学18名、法政大学29名、成蹊大学9名、成城大学3名、明治学院大学1名、武蔵大学2名、日本大学26名、東洋大学10名、駒澤大学3名、専修大学3名、芝浦工業大学10名、工学院大学11名、東京都市大学9名、北里大学5名、國學院大学3名、順天堂大学1名、玉川大学2名、拓殖大学1名、千葉工業大学2名、帝京大学7名、帝京科学大学2名、帝京平成大学4名、東海大学5名、東京医療保健大学3名、東京経済大学2名、東京工科大学7名、東京工芸大学3名、東京農業大学8名、東京薬科大学4名、二松学舎大学1名、日本獣医生命科学大学2名、武蔵野大学8名、明海大学1名、明星大学10名、目白大学3名、立命館大学2名、立命館アジア太平洋大学1名、国立音楽大学1名、洗足学園音楽大学1名、多摩美術大学1名、日本体育大学3名、日本女子体育大学2名、東京女子体育大学1名、跡見学園女子大学2名、大妻女子大学1名、女子栄養大学2名、白百合女子大学1名、東京家政大学1名、東京女子大学1名、東洋英和女学院大学1名

東京電機大学 [学内推薦 23名] (昨年度18名) システムデザイン工学部3名、未来科学部8名、工学部8名、理工学部4名、[一般受験合格者 21名] (昨年度25名)

●中学校の受賞・成績

- 日本私立中学高等学校連合会賞
- (公益財)東京都体育協会並びに東京都高等学校体育連盟賞
- First LEGO League North American Open Championship 世界大会 第2位
- 剣道部：第47回東京都中学校第10ブロック中学校秋季剣道大会 1年男子の部 第3位
- 第61回春季三鷹市柔道大会 中学生男子の部 第3位
- 野球部：第22回多摩武蔵杯野球大会 Rブロック 優勝
- バスケットボール部：第13回東京都私立中学校バスケットボールバスケットボール私学対抗戦 女子の部 準優勝
小金井市春季バスケットボール大会 男子の部 優勝/1年生男子の部 優勝
1年生女子の部 優勝、第69回小金井市民体育祭 中学生男子の部 優勝
- サッカー部：平成29年度小金井市中学生育成大会 準優勝、小金井市民体育大会 準優勝
- ソフトテニス部：第69回小金井市民体育祭 中学生女子ダブルス1年生の部 優勝
- バドミントン部：第69回小金井市民体育祭 中学生男子シングルス 準優勝/中学生男子ダブルス第3位/中学生女子ダブルス第3位
- 水泳同好会：第18回多摩地区中学校水泳競技大会 男子100m背泳ぎ 第5位
- 将棋愛好会：文部科学大臣杯 第13回小中学校将棋団体戦 東京予選 準優勝
- 第28回伊藤園「お〜いお茶」新俳句大賞 佳作特別賞/佳作
- 第45回東京私立中学高等学校「生徒写真・美術展」美術の部 奨励賞/特選/入選
- 第23回「前田純孝賞」学生短歌コンクール 新温泉町教育長賞/佳作/学校特別賞
- 平成29年度「小金井平和の日」記念行事作文コンクール 優秀賞

●教育目標

生徒一人ひとりが個性を伸ばし、豊かな人間性と高い知性と強靱な体をそなえ、新しい時代と国際社会の中で活躍し、信頼と尊敬を得る人間となるよう教育する。「豊かな心・創造力と知性・健やかな身体」をそなえた人を育てることが、本校の目標です。

高等学校の教育方針 大学入試に対応できる学力をつけるだけではなく、さまざまな職業に対する知識を深めることで生徒の希望する進路へと導く。
高校1年：現実的な視点に基づく進路選択眼を養う
高校2年：進路目標を学習意欲に結びつける
高校3年：目標達成に向けて全力で取り組む

●進路状況

高等学校	進学	就職	その他
普通科 (245人)	25人	165人	6人

中学校	進学	就職	その他
中学校 (155人)	150人	5人	

●高等学校の受賞・成績

- 東京都知事賞
- 日本私立中学高等学校連合会賞
- (公益財)東京都体育協会並びに東京都高等学校体育連盟賞
- 東京都高等学校文化連盟賞
- 東京都高等学校野球連盟賞
- 東京都高等学校吹奏楽連盟理事長賞
- 日本生徒会大賞2017 団体の部 大賞
- 日本生徒会大賞2017 個人の部 特別賞
- 鉄道研究部：第9回全国高等学校鉄道模型コンテスト【中高共通】1置レイアウト部門で優秀賞/モジュール部門でベストムービー賞
- 柔道部：第49回東京都ジュニア体重別選手権第四支部予選会 男子個人55kg級 第3位
第65回関東高等学校柔道大会第四支部予選会 男子個人無差別級 第5位
上記により都大会出場
第65回関東高等学校柔道大会 第四支部予選会 男子団体の部 第9位
第61回春季三鷹市柔道大会 有段軽量の部 優勝
第66回全国高校総体柔道競技大会 第四支部予選会 男子団体の部 第9位
第4支部新人柔道大会 男子個人無段の部 66kg超級 優勝
第67回三鷹市体育祭スポーツ大会柔道競技 段外の部 優勝
- 剣道部：第8支部剣道大会 準優勝
- 女子バレー部：新人リーグ戦大会 優勝、春季リーグ戦大会 第3位
- 硬式テニス部：第37回有明チャンピオンシップジュニアテニス大会 男子シングルス16歳以下の部 ベスト8
- 第45回東京私立中学高等学校「生徒写真・美術展」美術の部 入選
- 静岡産業大学主催6回俳句コンテスト 優秀賞
- 第28回伊藤園「お〜いお茶」新俳句大賞 佳作特別賞

データ集

●資産

キャンパス総面積 699,147.11㎡
東京千住キャンパス：26,221.39㎡
東京神田キャンパス：481.70㎡
埼玉鳩山キャンパス：348,469.68㎡
千葉ニュータウンキャンパス：205,058.00㎡
東京小金井キャンパス：22,023.48㎡
東京千住キャンパス千住東グラウンド：7,918.86㎡
平岡総合グラウンド：88,974.00㎡
図書蔵書数 212,701冊
学生用図書：196,547冊
研究用図書：16,154冊
雑誌：2,089タイトル
電子ジャーナル：約7,470タイトル
電子ブック：約50,000タイトル
コンピュータ台数
ネットワーク接続：約8,700台

●学生数(人)

大学 9,959 (1,236)	() 内は女性数で内数
大学院	
先端科学技術研究科	博士：46 (3)
工学研究科	修士：314 (21)
理工学研究科	修士：209 (32)
情報環境学研究科	修士：52 (3)
未来科学研究科	修士：261 (40)
工学部	2,865 (209)
工学部第二部	749 (55)
理工学部	2,743 (360)
情報環境学部	568 (76)
未来科学部	1,603 (338)
システムデザイン工学部	549 (99)
高等学校	784 (242)
中学校	504 (147)

●定員(人)

大学院	入学定員	収容定員
大学院先端科学技術研究科(博士)	32	96
大学院工学研究科(修士)	170	340
大学院理工学研究科(修士)	122	244
大学院情報環境学研究科(修士)	40	80
大学院未来科学研究科(修士)	145	290
学部		
工学部		
電気電子工学科	120	480
電子システム工学科	90	360
応用化学科	80	320
機械工学科	110	440
先端機械工学科	100	400
情報通信工学科	110	440
工学部第二部		
電気電子工学科	60	216
機械工学科	60	216
情報通信工学科	60	216
理工学部		
理工学科	600	2,400
未来科学部		
建築学科	130	520
情報メディア学科	110	440
ロボット・メカトロニクス学科	110	440
システムデザイン工学部		
情報システム工学科	130	520
デザイン工学科	110	440
高等学校	250	750
中学校	150	450

●卒業生数

219,652人

●関連機関

一般社団法人東京電機大学校友会 東京電機大学後援会 (2018年5月1日現在)

●修了者・卒業生数 (2017年度)

			昼	夜	合計
大学	大学院	先端科学技術研究科 博士課程(後期)	4	—	4
		工学研究科 修士課程	156	—	156
		理工学研究科 修士課程	112 ※(1)	—	112
		情報環境学研究科 修士課程	24 ※(2)	—	24
		未来科学研究科 修士課程	131	—	131
学部	工学部	647	—	647	
	工学部第二部	—	111 ※(3)	111	
	理工学部	600 ※(4)	—	600	
	情報環境学部	253 ※(5)	—	253	
	未来科学部	320 ※(6)	—	320	
高等学校			245	—	245
中学校			155	—	155
合計			2,647	111	2,758

- ※(1)2017年9月修了者1名を含む。
- ※(2)2017年8月修了者1名を含む。
- ※(3)2017年9月卒業生7名を含む。
- ※(4)2017年9月卒業生3名、3.5年の修学による早期卒業生2名、3年の修学による早期卒業生4名を含む。
- ※(5)2017年8月卒業生14名を含む。
- ※(6)2017年9月卒業生3名、3年の修学による早期卒業生1名を含む。

●役員・従業員数 (2018年5月1日現在)

役員等	理事	監事	評議員	顧問	学資	参与
	15	2	48	2	19	39

専従者

専従者									
	教員職員	教育嘱託	任期付教員	特別専任教授	事務職員	事務嘱託	技術職員	技術嘱託	計
法人	0	0	0	0	35	0	1	1	37
大学	205	61	79	12	113	9	8	1	488
高等学校	34	6	0	0	4	0	0	0	44
中学校	25	0	0	0	3	0	0	0	28
小計	264	67	79	12	155	9	9	2	597
事業本部	0	0	0	1	7	0	0	0	8
校友会	0	0	0	0	3	1	0	0	4
合計	264	67	79	13	165	10	9	2	609

学生職員・補助職員

学生職員・補助職員						
	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
学生職員	0	56	0	0	0	56
補助職員	1	47	7	5	1	61
合計	1	103	7	5	1	117

外来教員

外来教員				
	大学	高校	中学	計
非常勤教員	522	31	25	578

業務委託・人材派遣

業務委託・人材派遣						
	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
業務委託・人材派遣	16	87	3	11	3	120

入試コーディネーター等労働契約者

入試コーディネーター等労働契約者						
	法人	大学	中・高	事業本部	校友会	計
週5日以上勤務者	0	4	0	3	0	7

データ集

●学生募集状況

学部	2016年度	2017年度	2018年度
工学部	8,487	9,086	8,274
工学部第二部	684	672	690
理工学部	5,258	4,611	5,863
情報環境学部	2,347		
未来科学部	5,180	4,746	4,698
システムデザイン工学部		4,139	3,631
合計	21,956	23,254	23,156

学部	2016年度	2017年度	2018年度
先端科学技術研究科	15	13	12
未来科学研究科	154	152	128
工学研究科	199	161	175
理工学研究科	137	125	118
情報環境学研究科	28	26	32
合計	533	477	465

※2016年度/2017年度には9月入試志願者数を含む。

●進路状況 (2017年度修了者・卒業者)

大学

- (1) 求人申込企業数 14,881社
- (2) 求人数 207,651人
- (3) 就職希望登録者および決定者数

内訳		登録者数	決定者数	内定率
大学院	工学研究科 修士課程	150人	150人	100.0%
	理工学研究科 修士課程	101人	99人	98.0%
	情報環境学研究科 修士課程	23人	23人	100.0%
	未来科学研究科 修士課程	125人	125人	100.0%
学部	工学部	455人	450人	98.9%
	工学部第二部	71人	66人	93.0%
	理工学部	459人	444人	96.7%
	情報環境学部	200人	195人	97.5%
	未来科学部	189人	185人	97.9%
合計	1,773人	1,737人	98.0%	

(4) 規模別就職者数

- 大企業 (資本金10億円以上) 876人
- 中企業 (資本金1億円~10億円未満) 436人
- 小企業 (資本金1億円未満) 378人
- その他 (公務員、教員等) 62人

(5) 大学院進学状況

学部	人数
工学部	152人
工学部第二部	4人
理工学部	97人
情報環境学部	29人
未来科学部	112人
他大学院進学者	10人
工学部第二部	0人
理工学部	6人
情報環境学部	1人
未来科学部	3人

※上記には、早期卒業による本学大学院進学者、他大学院進学者の理工学部4名を含む。

●寄付状況 (2017年度学校法人東京電機大学サポート募金) [期間 2017年4月1日~2018年3月31日]

学校法人東京電機大学サポート募金

使途指定	在校生ご父母	卒業生(関係団体含む)	役員・教職員(元教職員含む)	法人	一般賛同者	合計
奨学金	26件	63件	21件	3件	2件	115件
施設・設備	2,233,000円	3,567,009円	1,981,223円	2,050,000円	79,908円	9,911,140円
課外活動	187件	43件	19件	14件	3件	266件
創立110周年記念事業募金	5,959,708円	4,052,731円	1,760,000円	8,670,000円	530,000円	20,972,439円
その他・指定なし	138件	22件	20件	1件	4件	185件
合計	2,020,000円	526,000円	671,000円	20,000円	160,000円	3,397,000円
創 立 110周年記念事業募金	21件	95件	29件	18件	2件	165件
その他・指定なし	260,000円	37,980,000円	8,265,000円	28,230,000円	60,000円	74,795,000円
合計	67件	117件	16件	5件	3件	208件
合計	1,280,000円	52,337,000円	2,420,000円	60,600,000円	130,011,500円	246,648,500円
合計	439件	340件	105件	41件	14件	939件
合計	11,752,708円	98,462,740円	15,097,223円	99,570,000円	130,841,408円	355,724,079円

その他インフォメーション

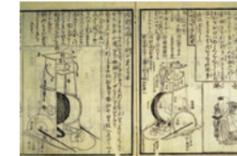
学術資料

●クラーク文庫：エジソンの共同研究者の特別集書

アメリカの電気工学者、チャールズ・クラークが所蔵していました。クラークはエジソンの共同研究者で、電気技術の発展に大いに貢献しました。19~20世紀の電気学、物理学、工学など科学技術に関する約500点で構成され、古典とされるアンペール、ファラデー、ヘルツ、オーム等の初版本も含まれています。

●科学技術と本文庫

江戸から明治時代前半の科学・技術の文献約200点を収集したもので、わが国でも数少ない和本文庫です。大半は木版印刷による和綴書ですが、毛筆書きの写本や書簡も含まれます。鎖国体制下に始まる蘭学の時代から明治の文明開化に至るまでの、日本の科学・技術の流れをたどることができる貴重な資料です。



●山岡文庫

山岡望(1892(明治25)~1978(昭和53)年)は、わが国の化学教育と化学史研究の草分け的存在です。山岡文庫は、氏が生前に収集した文庫類約280点を集めたもので、洋書や雑誌類も数多く含まれています。単に図書としてではなく、歴史に残る化学教育者・化学史家が使用した文献という意味でも、貴重な歴史資産です。

貴重資料

●エジソン蓄音機

音を出し入れできる器械の出現の夢を、1877年に遂にエジソンが達成。日本には2年後の1879(明治12)年に紹介されました。(本学展示は、「トリアンプ Model Cand D 形式」の蓄音機)



●エジソンダイナモ

エジソン形直流発電機は、エジソンが1879年に発明し、自らエジソン社を創立、この機械を製造しました。現存しているのは本学のほか、東京大学、東京国立博物館、東京理科大学の3台だけで、しかも発電可能なものは本学の1台のみで、歴史的にも貴重なものです。



●その他

他に本学創立期の実演教育に活用された、直流電位差計、P.O.箱(Post-Office-Box)、昭和初期の五球再生式ラジオ、昭和30年代の電動式モノロー計算機、日本初の「日本語ワードプロセッサ」も理工学部にて展示しています。

学校法人東京電機大学サポート募金

「学校法人東京電機大学サポート募金」は、各キャンパスでの事業や学生・生徒活動などのさらなる推進をご支援いただくことを目的に、寄付の使途を指定いただける募金として2013(平成25)年にスタートしました。(研究に関しては研究活動奨励寄付金としてお受けいたしております)なお、2015(平成27)年から創立110周年記念事業募金を使途に加え募金活動を行っております。皆様方のご支援・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

高額寄付(1,000万円以上)の受入状況

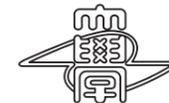
企業	金額	個人	金額
足立成和信用金庫様	10,000,000円	井上 清 様	30,000,000円
株式会社ソディック様	60,000,000円	鈴木 茂昭 様	50,000,000円
		深井 綾 様	130,000,000円

- ネーミングライツご紹介：寄付者の名前を冠した施設 カシオホール、神山記念ラウンジ、井上記念学生ラウンジ、松本記念学習ホール、福田記念セミナー室
- 座席にお名前を顕彰：学園のメインホール東京千住キャンパス1号館2階羽羽ホールに累計100万円以上の募金を頂いた方のお名前を顕彰いたしております。



大学校章

1939(昭和14)年3月の高等工業学校設置時に、「近代文明の根幹をなす電機工業の源泉たる電気現象を表現するとともに、さらにこれを通じて生々無息なる宇宙造化を意味するものなり」として、稲妻をモチーフにした図案が制定されました。その後、1949(昭和24)年の大学開設に際して、その図案と文字を組み合わせ、東京電機大学の校章として制定されました。



ロゴ・マーク

大学開設以来の工学部に加え、1977(昭和52)年には理工学部を設置し、東京電機大学は単科大学から理工系総合大学になりました。英文名称もそれまでの Tokyo Electrical Engineering College (TEEC) から、Tokyo Denki University (TDU) に変更しました。1984(昭和59)年、創立75周年記念事業として、神田のキャンパスに17階建ての11号館を建設する際、外壁に大学名と「TDU」を表示することになり、この3文字がデザインされました。「TDU」は校舎や各種広報物などに使用されています。



学園公認徽章

スクールカラーの紺青をベースとし大学校章の通称稲妻マークを中央、TDUを上部、校名を下部に配置。教職員、在校生、卒業生等が着用しています。(2009年7月制定)



大学エンブレム

学園公認徽章を踏まえ、愛校心涵養や国際交流など格式を重んじる場面等で活用されるエンブレムをデザインし制定しました。(2011年5月制定)

